週刊 YEARBOOK

1948
昭和23年

日録20世紀

8|12
平成9年8月12日発行
(毎週1回発行)第1巻第25号
¥560
講談社

美空ひばりデビュー!

福井大地震!「複合災害」で市内は壊滅
白昼堂々、銀行員を毒殺した帝銀事件の謎
解放から4年目、朝鮮半島"南北分断"の悲劇

10歳の少女が横浜国際劇場を沸かせた
“戦後歌謡界の女王”美空ひばりデビュー!

戦災の傷跡が色濃く残る横浜に、天才的に歌がうまいと評判の少女がいた。
昭和23年、横浜国際劇場に出演した10歳の少女は、歌謡曲を達者に歌いこなし、満場の喝采をあびる。
戦後40年間、トップスターの座に君臨した“女王”美空ひばりが誕生した瞬間だった。

▲ヒット曲のタイトルを、毛筆で大書。左から次女・勢津子、ひばり、次男・武彦、長男・益夫。 ひばりプロダクション提供

「ハマのベビー笠置」がスター街道をひた走る

昭和二三年五月一日、前年オープンした横浜国際劇場の一周年記念興行のステージに、頬に真っ赤な紅(べに)を塗り、頭に大きなリボンをつけた一〇歳の小柄な少女が立っていた。少女の芸名は美空和枝、小学校五年生だった。彼女を前座に使った小唄勝太郎(こうたかつたろう)(四三)は、童謡でも歌わせるつもりでいた。だが、ものおじもせず少女が歌いだしたのは、岡晴夫(三二)の「港シャンソン」だった。「赤いランタン夜霧に濡れて　ジャズがむせぶよ」。

少女は、大人のような身のこなしで思い入れたっぷりに歌った、と後にマネージャーとなった福島通人は語っている。

「リハーサルも何もせずぶっつけで舞台に上げたら、いきなり大人の歌を歌いだしたのには驚きました。それが大受けに受けて、しかも勝太郎さんがいい人で、別に文句も言わずニコニコして舞台の袖から現れたのでホッとしたものです」

少女自身の回想によれば、

「二〇〇〇の客のざわめきかたが、いままで知っている小屋と全然違いました。このあいだまで、この闇(やみ)の中に沈んだ客席のどこかに座って、私は手に汗をにぎって見ていたのです。でも今日は、ほんの端役とはいえ、ライトをあびて舞台に

▶昭和24年9月、浅草国際劇場の楽屋にて。この年は、レコード初吹きこみ、映画初出演と一気にスター街道を突っ走った。 朝日新聞社

◎表紙　昭和24年、「悲しき口笛」に出演し、主題歌も大ヒット。レコードは45万枚を突破した。 松竹提供

立っているのでした。この感じは、忘れようとしても忘れられるものではありません」(『ひばり自伝』)

客席からはあきれ、驚き、同時に感嘆する拍手が沸き起こった。翌日は笠置シズ子(三三)の「セコハン娘」、そして「リンゴの唄」など五日間、毎日曲目は変わった。戦後歌謡界の女王、美空ひばり(本名・加藤和枝)のデビューだった。

ひばりは、昭和一二年五月二九日、横浜・磯子の鮮魚商「魚増」の長女として生まれた。小学校一年生の時、父親の出征壮行会で「九段の母」を歌い、一座の涙を誘う。

戦後、母の喜美枝は、娘専属の「スター美空楽団」を作り、歌える場所があれば、祭りの余興や海水浴場にも出かけていった。昭和二一年春、横浜・上大岡のアテネ劇場に出演。その後、杉田劇場からも声がかかり、ここで俗曲の音丸にかわいがられた。そして前座とはいえ、一流劇場の舞台で、「ハマのベビー笠置」がプロとして出発したのである。

横浜国際劇場は、東京の劇場が閉鎖中なのを尻目に、いち早く建てられた二〇〇〇人収容の大劇場だった。柿落としは松本幸四郎、市川海老蔵、坂東三津五郎の「三番叟」という豪華な演し物が飾った。ひばりのデビューした舞台には、当時のトップスター藤山一郎(三七)や笠置が競演している。わが娘が彼らと共演したのを舞台の袖で見届けた喜美枝は、感激のあまり、もうこれで思い残すことはない、と語っていた。横浜国際劇場が払った彼女のギャラは、一日三〇〇円とも五〇〇円とも言う。藤山、笠置がバンドこみで五万円の時代であった。

短い間、横浜国際劇場の専属だったが、あけて昭和二四年、日劇小劇場の伴淳三郎との共演を機に、芸名は「美空ひばり」に変えられた。そしてこの年九月に封切られたひばりの主演映画「悲しき口笛」が同名の主題歌とともに大ヒットし、彼女は一躍スターダムにのし上がる。だが一方で、ひばり人気に眉をひそめる人もいた。「リンゴの唄」の作詞者、サトウハチローは「近頃でボクの嫌いなものはブギウギを歌う少女幼女だ。(中略)怪物・バケモノのたぐいだ」(「東京タイムズ」昭和二五年一月二三日)と、ひばりを感情的に罵倒した。

だが、ひばりはそんな声をよそに、庶民大衆から圧倒的人気を博していく。その圧巻は二七年の歌舞伎座公演だ。わずか一五歳にして、歌謡曲歌手としては初めての檜舞台を踏んだのである。ピークの三六年にはレコードが四三曲、そして映画出演は一三本におよんだ。

▲昭和24年9月、浅草国際劇場出演の帰り、福島通人マネージャーの背に負われて。左は母・喜美枝。 朝日新聞社

10歳の少女が横浜国際劇場を沸かせた
〝戦後歌謡界の女王〟美空ひばりデビュー!

飲み屋でも気さくに歌う 〝庶民派〟ひばりの素顔

ひばりは、上流階級への生理的反発を生涯持っていたようだ。たとえばひばりの後援会長は、無名の人がつとめていた。「有力な政治家が後援会長になると申し出られたこともありました。が、私は大衆のひばりだからとお断りしていました」と、ひばりの付き人を三〇年つとめた関口範子さんは証言する。

・昭和五〇年頃、新宿ゴールデン街に現れ「客のリクエストにこたえて二五曲を歌いまくった」(スナック「ぷーさん」の大田隆子さん)こともあった。ゴールデン街は、新宿の、焼け跡の風情をいまだに残す飲み屋街である。劇場やスタジオでなくても、興に乗ればひばりはどこでも気さくに歌ってみせた。

養子の加藤和也は語る。

「食べ物の好みからして庶民そのもの。黙っていると、すいとん、焼きおにぎり、焼きそば、そんなものばっかりです。公演の時も、楽屋に置いてあるメニューも見ずにチャーシュー麺、ですからね」

戦後を駆け足で生きたひばりは、昭和天皇と軌を一にするように、病に倒れた。そして昭和の終焉を見届け、平成元年六月二四日、五二歳の生涯の幕を閉じた。

◀昭和二四年、通学する横浜市磯子区の滝頭小学校にて。クラスの演芸会では、いつも指導役。 朝日新聞社

美空ひばり栄光の軌跡

昭和

12年	横浜市磯子区で加藤増吉・喜美枝の長女として誕生。
20年	母・喜美枝、「スター美空楽団」結成。美空和枝の名で参加。
21年	横浜のアテネ劇場で初舞台。
23年	横浜国際劇場に出演、本格的にデビュー。
24年	日劇小劇場に出演。芸名、美空ひばりとなる。松竹映画「悲しき口笛」に初主演。同名の主題歌が大ヒット。
25年	映画「東京キッド」封切。主題歌大ヒット。ハワイ公演。
26年	「私は街の子」「陽気な渡り鳥」など22曲発表、映画8本出演。
27年	浅草国際劇場で正月公演。歌謡曲歌手初の歌舞伎座公演。「リンゴ追分」「お祭りマンボ」など、25曲発表、映画8本出演。
28年	「津軽のふるさと」「流れのギター姉妹」など36曲、映画7本。

松竹提供

前沢健哉提供

▲ひばりの本格的な主演映画第1作「悲しき口笛」。共演は津島恵子、原保美。

◀レコード・デビューは、昭和24年の「河童ブギウギ」(コロムビア・レコード)。

29年	映画「伊豆の踊子」に薫役で主演、女優としても高い評価。紅白歌合戦初出場。「ひばりのマドロスさん」など34曲発表。
30年	江利チエミ、雪村いづみと三人娘初共演。山田耕筰のレッスンを受ける。「娘船頭さん」など37曲発表、映画13本出演。
31年	大劇正月公演にファン殺到、一人死亡。長谷川一夫と映画共演。「波止場だよお父っつぁん」など30曲発表、映画 8本出演。
32年	浅草国際劇場公演中ファンに塩酸をかけられる。「港町十三番地」「長崎の蝶々さん」など32曲発表、映画11本出演。
33年	成人式。デビュー10周年記念リサイタル。「花笠道中」「菊五郎格子」「ら・あさくさ」など31曲発表。
34年	東映映画「べらんめえ」シリーズほか映画14本出演。「ふり袖ざくら」など26曲発表。
35年	「哀愁波止場」でレコード大賞歌唱賞受賞。
36年	第2回ハワイ公演。レコード500万枚突破記念リサイタル。「車屋さん」「ひばりの渡り鳥だよ」など43曲発表。
37年	ブルーリボン大衆賞受賞。小林旭と結婚。「ひばりの佐渡情話」「母さんギター」など32曲発表、映画14本出演。
38年	雑誌「平凡」の歌手人気投票で12年連続1位記念リサイタル。
39年	離婚。新宿コマ劇場初出演。「柔」180万枚、最大のヒット。
40年	「柔」で第7回レコード大賞受賞。
41年	「悲しい酒」発表。
42年	「真赤な太陽」発表。芸能生活20周年公演。「美空ひばり大全集」発表。
45年	紅白歌合戦で司会をつとめる。
50年	芸能生活30周年記念アルバム(全15枚)発売。
62年	済生会福岡総合病院に約4ヵ月入院。再起第1作「みだれ髪」「塩屋岬」発表。
63年	東京ドームで「不死鳥コンサート」開催。「川の流れのように」発表。

平成

元年	順天堂大学病院で永眠。享年52歳。女性初の国民栄誉賞。

マグニチュード7.1、史上初の"激震記録"の日

火災、液状化現象、豪雨で市内は壊滅 福井大地震、「複合災害」の恐怖!

◀「福屋」の名で市民に親しまれていた大和百貨店は、七階建て鉄筋コンクリートの建物だったが、南一五度に傾き、内部は焼失した。

カール・マイダンス(LIFE)／PPS

▲身のまわりの品だけを持って避難し、地面に座りこんで呆然とする女性。 カール・マイダンス(LIFE)／PPS

昭和二三年六月二八日、午後五時一三分二七秒、福井県北部の九頭竜川下流付近を震源とするマグニチュード七・一の直下型巨大地震が発生。気象庁の震度表示に、史上初の震度七が設けられた。二〇年七月一九日の福井大空襲から三年たらず、戦禍からようやく立ち上がろうとしていた矢先、またもや県民に大打撃が加えられたのである。

あたり一面の砂ぼこり 六割以上の家屋が全壊

「事務所から夢中で這い出して外に出ると、あたり一面ものすごい砂ぼこりで、建物はすべて潰れ、視線をさえぎるものはありませんでした。火の手が上がった映画館に救助のため駆けつけると、崩れた建物の下からは蚊の鳴くようなうめき声が聞こえ、手や足だけを出して息をひきとっていた人もいました」

当時福井市の消防署につとめ、難を逃れた白崎誋さん(七四)はその惨状をこう語る。

彫刻家の加藤常勝さん(七五)も命拾いをした一人。市内の「東宝文化劇場」で映画を見ている時のことであった。一瞬のうちに崩れ落ちた建物の下敷きにな

り、左腕が抜けず火が近づいたために、居あわせた映写技師に斧で自分の腕を切り落とさせ、一命をとりとめた。

福井市内では九割以上の家屋が壊れ落ち、ショッピングの中心として親しまれた七階建ての大和百貨店は倒壊寸前。かろうじて原形をとどめたのは、県庁、市役所、消防署など約一〇〇〇戸にすぎなかった。電柱はいたるところでなぎ倒され、道路の地割れも激しく電車の線路も曲がりくねった。

地面からは土や泥が噴き上がり、燃え広がる火の中を逃げまどう人、血を流しながら呆然と立ちすくむ人、地割れに落ち圧死する人など、その惨状はすさまじかった。

火の手は福井平野四三ヵ所から上がり、折からの強い南風にあおられて猛火が広い範囲に襲いかかった。特に福井市、丸岡町、金津町などの被害が大きく、全地域の火が完全に消えるまでには五日も要したほどである。

福井市内にある東宝・大修・国際の各映画館では、観客約六〇〇人が一度に焼死または圧死するなど、福井平野を中心に被害は死者・行方不明者三七六九人、被害総戸数四万六一一五戸、焼失建物は三八五一戸で、家屋の全壊率が六割を超えるという甚大なものであった。

追い打ちをかけたのは地震から約一ヵ月後、七月二四日から二五日にかけ、平野部で一三〇ミリ、山間部で二〇〇ミリを超す雨量を記録した豪雨であった。地震で亀裂が生じていた竹田川や九頭竜川左岸などの堤防は、もろくも決壊し、一〇〇〇戸以上が浸水し、濁流に呑みこまれて、家屋の流失や浸水など、被害戸数は二万八八〇〇戸余りにのぼったのである。

◀6月30日、納棺前の焼死者に手を合わせ冥福を祈る福井市民。

毎日新聞社

初の公安条例施行で左翼勢力を封じこめ

本格的な救護活動は翌六月二九日から始まった。震災による負傷者約二万人のうち、軽傷者は学校などに設けられた臨時救護所で治療を受け、重傷者は日赤福井病院など各病院に収容された。しかし、医療器具や薬品不足のため応急処置をするのがやっとのことであった。

援助物資も続々届けられた。政府は福井県七〇〇〇石、石川県一五〇〇石の凍結米を解除し、建築資材、衣料品、日用品などを送った。毛布一万枚、ズボン五〇〇〇着、靴下一万足などは、舞鶴地方引揚援護局が放出したものだった。救援活動は県をはじめ、京都駐留のアメリカ軍や民間団体である県連合青年団、県連合婦人会や曹洞宗永平寺、浄土真宗東・西本願寺、YMCA、天理教などの宗教団体によっても積極的に行われた(『福井震災史』)。

しかし一方で、GHQ(連合国総司令部)の出先機関である福井軍政部は、労働組合や左翼勢力の活動を封じこめるという強硬手段に訴え、それに基づき福井市は七月七日、全国で戦後初の公安条例「災害時公安維持に関する条例」を施行した。

その内容は混乱に乗じてデマを流したものに対する処罰、政治的・経済的そのほかいっさいの扇動的言動を禁止するもので、最初の適用を受けたのは、災害調査のため福井県を訪れた共産党系の布施辰治弁護士と東京都議会議員・岩田英一であった。二人は福井に入るや、軍政部長のもとへ連行され、「好ましからざる人物」として、県外追放を命じられた。すでに福井入りしていた作家の中野重治ら五〇人の共産党員も、自宅に連れ戻されて警官の監視下におかれてしまった。岩田らはただちに憲法違反であるとの訴訟を起こしたが、一〇月一六日福井地裁はこれを却下した。

福井大地震は火災や液状化現象、豪雨などが重なる「複合災害」の恐ろしさをまざまざと見せつけたと同時に、史上初の震度七(激震)が記録された地震でもあった。この教訓をどう生かしたのか。

復興の先頭に立ったのは、土木建設会社熊谷組の社長でもあった熊谷太三郎市長で、学校を建てなおし、上下水道を完備、広い道路を作るという思いきった施策を推進、福井市は六、七年で面目を一新した市街に生まれ変わったのである。

▼炎上するわが家を見つめる姉弟。

カール・マイダンス(LIFE)/PPS

女たちの肖像

女性初の文化勲章に美人画画家・上村松園の"芸術"と"私生活"

稲葉真弓

日本画の大家、近代日本美人画の最高峰と言われた上村松園(七三)が、女性として初の文化勲章を受章したのはこの年の一一月三日のこと。五八年間にわたる画業が世に認められたのである。彼女はそれから一年もたたぬ二四年八月二七日、肺癌に冒され世を去ったが、風雅で優美な作品の数数は後の日本画界に大きな影響を与えた。

上村松園の本名は津禰。明治八年四月二三日京都市の葉茶屋「ちきり屋」の次女として生まれた。父親は彼女の誕生二ヵ月前に急逝、気丈な母・仲の手で育てられた。後に松園は著書『青眉抄』の中で「私の母は私の芸術までも生んでくれた」と記したが、仲は、幼少時から好んで画を描く娘のたった一人の理解者であった。

明治二〇年、京都府画学校に入学した彼女は学校の帰途、京都画壇に一家をなしていた鈴木松年の塾に通い、画の勉強に明け暮れた。二三年の第三回内国勧業博覧会には「四季美人図」を出展。これが一等褒状を受けたうえ、英国のコンノート殿下お買い上げとなり話題を呼んだ。この時、彼女は一五歳。華々しいデビューを飾った少女は以後人物画に心血を注ぎ、三三年出世作となった「花ざかり」を第九回日本絵画協会・日本美術院連合共進会に出品し、下村観山、菱田春草、横山大観などのそうそうたるメンバーに次いで銀牌三席に入選した。

プライベートな面での彼女は"謎"の多い女性である。作家の瀬戸内寂聴はその私生活を「見事な沈黙ぶり」と評しているが、明治三五年、二七歳で婚姻外の息子・信太郎(後の上村松篁=日本画家)を出産、生涯ついに息子の父の名と、恋愛のいきさつをあかすことはなかった。

三〇歳代に入ってからの松園は、後々"最も凄惨な作品"と言われた「焔」を発表、以後長いスランプにおちいるが、昭和九年、母の死を契機に突如スランプを脱却、一一年、名作「序の舞」でみずから理想とする画の極地に達した。

以後の彼女は「夕暮」「晩秋」など次々と清澄な作品を発表したが、昭和二〇年、奈良県生駒郡の別荘に居を定め、この地で没した。逝去の報に接して、親交のあった作家・井上靖は「一人の、本当に怜悧な、美しい日本の女性がこの世から消えた」とその死を悼んだという。

▲精神性豊かな、近代美人画の典型を生んだ。

勝者・敗者

飢餓の時代のヒーロー"太鼓腹決戦"を制して大関東富士が初優勝

阿部珠樹

現代のような飽食の時代では、丸く突き出た腹など不摂生のしるしくらいにしか見られないが、三度の食事にもこと欠く飢餓の時代には、豊かさ、おおらかさ、強さ、愛敬などといったプラスのイメージで受け取られる。東富士(二六)は、何よりその大きく丸く突き出た腹が人気の的の力士だった。まさに東富士は、闇市と買い出しの時代にふさわしいヒーローだった。

昭和一一年に初土俵を踏んだ東富士は、入門五年目頃から徐々に力をつけ、一六年には幕下優勝、翌一七年には十両、さらに一八年には新入幕というように、着実に階段を上っていった。

戦後も堅実な歩みは止まらず、この年の夏場所は西の大関まで昇進していた。

この場所は、羽黒山、前田山の二横綱が休場し、優勝争いはまれにみる混戦と見られていた。

その中で、東富士は、二日目、怪力を誇る力道山の捨て身の投げに一敗を喫したものの、後は体重一二〇キロの巨腹を利した寄り身で隙を見せず、白星を積み重ねた。空腹で目をくぼませた観客は、東富士のおおらかで堂々とした取り口に、ひとときの満腹感を味わった。

◀幕下時代、双葉山に稽古をつけてもらい、昭和19年11月場所、初顔合わせの双葉山に土をつけて恩返しした。

優勝に突き進む東富士。その前に立ちはだかったのは、東富士に負けないみごとな腹の持ち主、西横綱の照国である。照国も三日目に一敗を喫したほかは、順調に白星をあげ、横綱の意地を見せていた。

二人の対戦は、千秋楽前日の一〇日目、結び前に組まれた。丸い腹を誇示するように向かい合う二人。立ち合い、東富士は巨体に似合わぬすばやさで左四つ右上手の得意の体勢に持ちこむ。照国は挽回しようと右の巻き替えに。ここで東富士が一気に勝負に出た。体を開いて右からの強烈な上手投げ。照国は土俵中央に横転した。

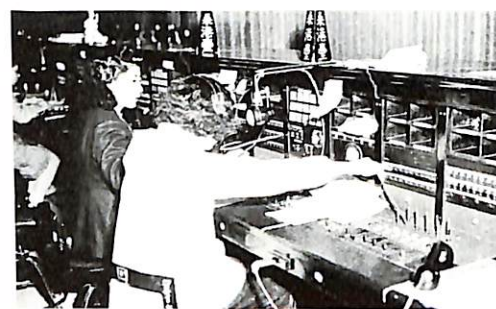
翌千秋楽も千代ノ山を破った東富士は、一〇勝一敗で初めて賜杯を手にした。飢餓の時代のヒーローは、人なつこい童顔をほころばせ、観客の歓呼にこたえた。

◀乳児殺しで寿産院院長逮捕(1月15日)東京・新宿区で昭和19年から、乳児保育を始めたが、もらったりした赤ん坊に配給のミルクなどを与えず、高額の養育費とともに着服。栄養失調などで103人を死亡させていた。後、院長に懲役8年、その夫には4年の判決。写真は保護される乳児。

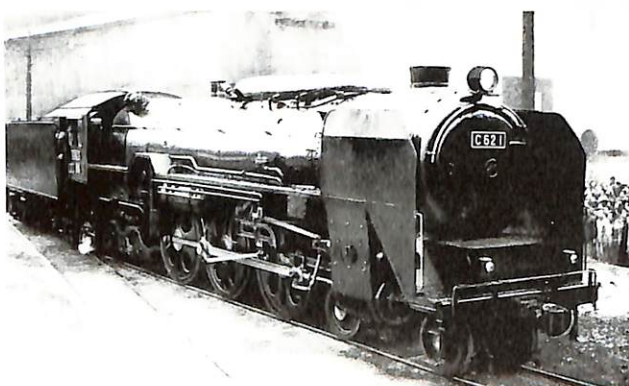
毎日新聞社

毎日新聞社

▲宮城への一般参賀始まる(1月1日)元日と2日の両日で約13万人が二重橋を渡った。大正14年以来のこと。7月1日、宮城は皇居となり、翌年からは天皇が参賀の人々に手を振ってこたえた。

◀「カニの横這い」(1月21日)参院副議長の松本治一郎が国会開会式での天皇拝謁作法をこう評して出席を拒否。写真は前年6月、国会開会式で天皇を迎える松本(左端)。

◀日米間で国際電話再開(1月4日)公的機関では昭和21年1月開通、民間用としてはスイス、アフガニスタンを結ぶ2回線以外は、太平洋戦争開戦以来初めて。写真は中央電話局の国際電話交換室。

毎日新聞社

◀C62形蒸気機関車完成(1月17日)旅客用として日本最大で、早さを誇った。昭和25年5月から特急「はと」「つばめ」などを牽引。愛称シロクニと呼ばれ、D51形(デゴイチ)と人気を二分した。

▶「インド独立の父」ガンジー暗殺(1月30日)極右ヒンズー教徒の凶弾に倒れた。独立後、宗教抗争の収拾に奔走、その犠牲になった。倒れた瞬間、相手を許すしぐさをしたという。78歳だった。

昭和23年1月

1(木)●宮城への一般参賀が再開(大正14年以来)。
2(金)●劇団民芸が初公演。村山知義演出「破戒」。
3(土)●前年の東京手形交換高が三・二倍増と判明。
4(日)●日米間の民間国際電話が再開。
5(月)●愛知県守山町で名鉄電車脱線。三五人死亡。
6(火)●米陸軍長官、日本は全体主義への防壁と演説。
7(水)●引揚げ者ら東京・三鷹の日本無線倉庫を占拠。
8(木)●米国で日本でのキリスト教大学設立基金募集と新聞に(24年国際基督教大学設立)。
9(金)●政府、北海道の製紙原木輸送強化のため、機関車五両を道内に移送。
10(土)●前年三月以来性病・結核が六五万件、と新聞に。
11(日)●東京都、四人以上の世帯に木炭一俵を配給。
12(月)●明治製菓、ペニシリンの製造を開始(この年三八社が生産開始)。
13(火)●前農相・平野力三、公職を追放される。
14(水)●鹿児島県沿岸で突風。船舶の沈没・損傷相次ぎ一三六人が死亡・行方不明。
15(木)●もらい児一〇三人を死亡させた東京・新宿区の寿産院院長夫婦を逮捕(寿産院事件)。
16(金)●中国への賠償物資輸送第一船が横須賀を出港。
17(土)●日本最大の旅客用蒸気機関車C62が完成。
●都教職員組合、初めて男女同一賃金を獲得。
18(日)●米政府、干しあんず一万余トンの対日輸出命令。
19(月)●社会党大会、自由党などとの四党協定破棄を決定。委員長・片山哲、書記長・浅沼稲次郎。
20(火)●東京都、都税滞納者の戸別取り立てを開始。
21(水)●参院副議長・松本治一郎、国会開会式で天皇への「カニの横這い」式拝謁を拒否し欠席。
22(木)●映画館に風紀監視の臨官席復活と警視庁通達。
23(金)●首相、詐欺容疑で代議士・原侑の逮捕許諾請求。
24(土)●文部省、朝鮮人学校の設立を認めず日本人の学校への就学義務を通達。
●戦後初の仏映画「美女と野獣」封切。
25(日)●電力好転でランプなど売り上げ激減と新聞に。
26(月)●帝国銀行椎名町支店で、男が一二人を毒殺し十八万円余を強奪(帝銀事件)。
27(火)●閣議、二五万定員削減の行政整理方針を決定。
28(水)●関西汽船「女王丸」、瀬戸内海で機雷に触れ沈没。二三人死亡、一六一人行方不明。
29(木)●第一回共同募金は五億三〇四二万円と発表。
30(金)●ガンジー、ヒンズー教徒に暗殺される。
31(土)●貿易庁、前年は輸入五・七倍、輸出二・九倍増、輸出品は生糸・人絹糸・綿布などと発表。

ニュース・ファイル

1948

フォト+日録で再現する366日

GHQの肝いりで成立した史上初の社会党政権、片山内閣は前年六月から、わずか九ヵ月目で崩壊。ソ連との「冷戦」を深めるアメリカの政策転換は明らかだった。昭電疑獄で倒れた芦田内閣から第二次吉田内閣へ、保守政権の基盤が固められつつあった。

◀マーカット少将、始球式(4月4日)東京・後楽園球場のプロ野球開幕戦、阪神対金星にGHQ経済科学局長がメジャー風に観客席からボールを投げこんだ。試合は雨のため5回1対0で金星のコールド勝ち。

共同通信社

毎日新聞社

◀「鐘の鳴る丘」舞台公演(2月)復員兵が戦災孤児たちの楽園を作ろうとする話で、菊田一夫原作。前年7月から連続ラジオドラマとして放送、聴取者の絶大な人気を博していた。写真はツクシ座による日劇小劇場での舞台。

▼首相官邸、火事騒ぎ(2月26日)国会記者会館裏手から出た火が、折からの強風で国会委員会庁舎、総理庁庁舎などを類焼、官邸に迫ったところで鎮火。芦田首相らは与党3党代表と組閣工作中だった。

月刊沖縄社

▼ペニシリン量産(2月7日)GHQが「生産は順調」と発表。前年、東洋レーヨンが量産開始、この年7月配給統制品からはずれ、値段も昭和21年の7分の1以下に。肺炎流行に悩む日本人にとって朗報だった。

共同通信社

▲東京都、木炭配給(2月)1月から1ヵ月分一般世帯1~3人は半俵、4人以上は1俵を、全世帯に1俵91~115円で配給。焼け跡に盛り分けられた炭を主婦たちは、燃料と暖房用にひとかけ残らず拾い集めた。写真は2月の配給。

◀裏口営業手入れ(2月)前年の飲食営業緊急措置令で、外食券食堂以外の料飲店に休業命令が出されたが、東京にある約3万軒のうち3分の1が闇営業でにぎわった。写真は新橋駅周辺の手入れ。客41人も検挙された。

毎日新聞社

▶模型飛行機大会(2月)毎週日曜日、東京インターナショナル・モデル・エアプレン倶楽部が宮城前広場で模型飛行機大会を開いた。2本の針金を使ったUコンと呼ばれるもので、マニアの米兵の指導を受けた。

毎日新聞社

共同通信社

◀「のど自慢全国コンクール」始まる(3月21日)この日、東京・神田の共立講堂で優勝大会が開かれ、26人が出場、3人が優勝した。司会は高橋圭三アナ(左)。7月からは地方巡回も始まり、第1回は宇都宮市で開かれた。

共同通信社

▲自治体警察誕生(3月7日)警察の地方分権化を勧めるGHQにこたえ、片山政権は国家警察と自治体警察の2本立て案を作成、発足にこぎつけた。しかし、市町村財政は危機に瀕しており、運営は困難をきわめた。

▼日本語を習う占領軍(3月16日)戦後、平川唯一の「カムカム英会話」の放送開始など日本人の英語学習熱は高まったが、占領軍側にも日本語を習うものが出始めた。写真は新型の録音盤に耳を傾ける将兵。

月刊沖縄社

熟眠剤 新発売

人は普通、八時間のところ
六時間しか眠らなかつたら
二十五パーセントもの余分
のカロリーを消費する——
眠られぬ夜のために
普通たつた一錠で……翌朝
のすがすがしさが特徴です

平和の眠り

アドルム錠

大阪・東京 塩野義製薬株式会社

▲アドルム禍(3月17日)塩野義製薬が「平和の眠り」のキャッチフレーズで新聞広告を出した睡眠剤。多数の中毒者や自殺者を出し、昭和48年発売中止になった。

▶民主自由党結成(3月15日)芦田内閣退陣を要求する自由党が、幣原らの同志クラブと合同、153議員を擁する第一党になった。写真は挨拶する吉田茂総裁。

共同通信社

昭和23年2月

1(日)●沢田美喜、混血児養護施設「エリザベス・サンダース・ホーム」を開設。
2(月)●GHQ(連合国総司令部)、炭鉱労働者と供出米完納農家に、米国製タバコを配給と発表。
3(火)●都営住宅入居者募集。二間で家賃三〇〇円。
4(水)●GHQ、外国投資家の来日と恒久的居住許可。
5(木)●全国の考古学者五〇人が考古学協会の設立を決める(4月1日発会式、委員長・藤田亮策)。
6(金)●閣議、社会党左派が反対派に同調したため追加予算案の撤回を決定。
7(土)●持株会社整理委、過度経済力集中排除法の第一次指定会社に鉱工業部門二五七社を指定。
8(日)●NHKのアナウンサー採用試験(定員二〇人)に八〇〇人が応募。
9(月)●セーラー万年筆、国産ボールペンの販売開始。
10(火)●社会党首班の片山内閣、九ヵ月で総辞職。
11(水)●自治体警察が一五六五市町村で試験発足。
12(木)●東京証券協会、株式店頭売買の再開を決定(3月1日NHKが市況放送を開始)。
13(金)●産別会議内の右派が産別民主化同盟結成。
14(土)●食パンの食中毒続発で、東京都はコッペパン配給への切り替えを指令。
15(日)●高級和服が八年ぶりに店頭に並んだが、振袖が公定価格二万円で手が出ず、と新聞に。
16(月)●内閣、義務教育漢字八八一字を告示。
●米、岸信介らA級戦犯容疑者の裁判を放棄。
●奥羽線上野―青森間に直通列車が運行再開。
17(火)●米第八軍、二一年五月から一年半で日本女性八二四人が在日米軍人らと結婚したと発表。
18(水)●浅草公園で興行中の女優らを公然猥褻で逮捕。
19(木)●松本治一郎、部落解放全国委員会の本部事務所用にと赤坂離宮(現・迎賓館)を視察。
20(金)●東京都、鯨肉に唾を吐くなど作業が不潔として大洋漁業に一週間の営業停止処分。
21(土)●首相に衆院は芦田均、参院は吉田茂を指名。
22(日)●海外からの日本救済小包が八三万個と新聞に。
23(月)●旧中島飛行機の隠匿物資一〇〇億円相当摘発。
24(火)●大阪府が新採用の警官四〇〇〇人中、志望動機が悪質なものなど四〇〇人を追放と新聞に。
25(水)●全官公、新給与職階級制反対の三月闘争開始。
26(木)●アスピリンなど大衆薬三九種の統制を解除。
27(金)●閣議、公務員の新給与水準二九二〇円と決定。
28(土)●停電時でも動く新電気時計が完成と新聞に。
29(日)●犬の売れ行き好調、一匹一万円以上も。

昭和23年3月

1(月)●東京都、この日までに都内三七四ヵ所の「八紘一宇」など戦意高揚碑銘の撤去を終える。
2(火)●中国検察当局、ソ連抑留中の元「満州国」皇帝・溥儀を反逆罪で起訴。
3(水)●東京都、井戸水使用者に塩素さらし粉を配布。
4(木)●山本安英らのぶどうの会が第一回勉強会(公演)で木下順二作「彦市噺」を初演。
5(金)●入浴料と洗髪料、ともに二倍の六円に値上げ。
6(土)●米・英・仏など西側六ヵ国会議、西独の西側組みこみを決議(ドイツ分裂が決まる)。
7(日)●新警察制度が発足。警視庁など全国一六一〇の自治体警察を設置。
8(月)●千葉市で放置焼夷弾が爆発。児童ら七人死傷。
9(火)●米、第二次ストライク報告発表。日本の対米賠償規模を縮小、日本経済復興へと転換。
10(水)●芦田均内閣成立。民主・社会など三党連立。
●三〇年ぶりの渇水で東京で二時間給水実施。
11(木)●米兵捕虜八人に対する「九大生体解剖事件」(20年)の軍事裁判が横浜で開廷。
12(金)●最高裁、死刑を新憲法でも合憲と判示。
13(土)●GHQ、米国でのマ元帥批判を日本でも解禁。
14(日)●警視庁目白署で強盗容疑者ら七人が集団脱走。
15(月)●全国九二の新制高校で通信教育を開始。
16(火)●日本新聞協会、編集権は経営者が行使と声明。
17(水)●英・仏・ベネルクス三国、西欧連盟条約(NATOの母体)に調印。
18(木)●戦災で焼失した新橋演舞場が再建され開場。
19(金)●GHQ、南氷洋捕鯨漁獲は一三三一頭と発表。
20(土)●著述家の公職追放。林房雄ら二七〇人を公表。
21(日)●NHK、「第一回のど自慢全国コンクール優勝大会」開催。司会は高橋圭三。
22(月)●東京都、お召し・丸帯など技術保存で統制解除。
23(火)●ワイズミュラーの「ターザンの黄金」封切。
24(水)●ストライク報告の賠償撤去工場リスト発表。
25(木)●「東洋のマタハリ」川島芳子、スパイ罪で北平(現・北京)で死刑執行。
26(金)●ドレーパー米陸軍次官、「日本を極東の工場にするため」の強力な対日経済援助を言明。
27(土)●都電、都バスのストで国電混乱(31日中止)。
28(日)●ストで休園中の上野動物園に、都民一万人が押しかけたため一時間半の無料公開を行う。
29(月)●GHQ、労組現況を発表。総数二万八四三九。
30(火)●全逓、GHQの通告により全国ストを中止。
31(水)●近鉄奈良線花園駅で衝突事故。死者四九人。

月刊沖縄社

▲捕鯨船慰労パーティー(4月12日)「食糧不足の救世主」として、昭和21年に始まった南氷洋捕鯨の第3次船団に加わった「日新丸」が帰国。GHQや政府関係者が船上で乗組員の労苦をたたえた。

毎日新聞社

▲初の選抜高校野球開催(4月1日)選抜大会としては20回目、学制改革後初の大会で16校が参加。6日の決勝戦は京都第一商業と京都第二商業が対戦、1対0で一商が優勝した。

毎日新聞社

▲天長節に日の丸(4月29日)GHQは、紀元節(2月11日)の国旗掲揚を認めたが、3月4日には12祝祭日に限り国旗掲揚を許可、天長節(天皇誕生日)のこの日、焼け跡の東京に日の丸がひるがえった。

共同通信社

◀米軍政部が神戸に初の非常事態宣言(4月24日)朝鮮人学校の閉鎖命令撤回を求め、在日朝鮮人が兵庫県庁を包囲したため兵庫軍政部は非常事態を宣言。翌日朝鮮人1732人を無差別に逮捕した。写真は逮捕者(手前)を調べる米兵と県知事たち。

▶「文化アパート」抽選会(4月15日)都住宅供給公社が初の集合住宅を芝高輪に建設。この日、8215世帯の申し込み中37世帯が当選。鉄筋、4階建て、2Kが中心だった。

共同通信社

共同通信社

◀大田区の密造酒地区急襲(4月20日)警視庁はカストリなどの密造酒地区を捜索、24人を検挙。かめを壊して証拠隠滅をはかるもの、泣き叫ぶものなど大変な騒ぎだった。

昭和23年4月

1(木)●新制高等学校(全日制・定時制)発足。
●日本鋼管、戦後初の銑鋼一貫態勢を確立。
2(金)●商工省、一般家庭への電力制限を解除と発表。割当の全量が使用可能に。
3(土)●南朝鮮での単独選挙に反対し、済州島全域で武装蜂起(完全鎮圧は八年後)。
4(日)●結核死亡率は一万人当たり一九人と厚生省。
5(月)●東京・杉並区にモデル保健所開所。
6(火)●新制初の選抜高校野球大会で京都一商が優勝。
7(水)●世界保健機関(WHO)発足。
8(木)●東宝、第一組合に二七〇人の人員整理案提示(21日労組、解雇撤回求め撮影所に籠城)。
9(金)●農協設立は準備中含め二万以上と農林省発表。
10(土)●イスラエルテロ部隊、パレスチナのデイル・ヤシン村を襲撃し村民二五四人を虐殺。
11(日)●前年のキャスリーン台風で水害被害を受けた都県が参加し、利根川治水期成連盟を結成。
12(月)●日本経営者団体連盟(日経連)発足。
13(火)●下関郵便局の外国小包抜き取り事件で局員一五七人を窃盗容疑で取り調べ。
14(水)●GHQ、ボーキサイトの輸入を許可(15日貿易庁、オランダとの輸入契約に調印)。
15(木)●日絆工業、セロハンテープの製造を開始。
16(金)●欧州経済協力機構(OEEC)条約調印。
17(土)●英占領軍、松江市の神社から小銃六〇〇丁・高射砲一一門など大量の武器発見と発表。
18(日)●回虫激増で駆除薬七〇トンが近く入荷と新聞に。
19(月)●蔣介石、中華民国初代総統に選出。
20(火)●警視庁、大田区の密造酒地区を強制捜索。
21(水)●東京都、新制高校の入試(四教科)を実施。
22(木)●農林省、主食としての大豆粉配給中止を発表。
23(金)●文部省、全小中学校に学校給食を拡大と発表。
24(土)●在日朝鮮人数千人が朝鮮人学校閉鎖に抗議し兵庫県庁を包囲。米軍政部、非常事態宣言。
25(日)●大リーグのヤンキースから日本の優勝チームにカップ贈呈と野球連盟が発表。
26(月)●黒澤明監督「酔いどれ天使」封切。
27(火)●衆院不当財産取引委で昭和電工への復金融資をめぐる贈収賄が問題化(昭電疑獄)。
28(水)●警視庁、『四畳半襖の下張』(非売品)の出版社社長を猥褻容疑で逮捕。
29(木)●初の通商使節団、インド市場視察のため出発。
30(金)●都衛生局、メチル中毒多発で簡易検査の受診を呼びかけ(4月に死者四人、失明者二人)。

影山光洋

▲北海道礼文島で金環食を観測(5月9日)午後零時50分36秒、待機していた東京天文台と米国地理学協会の日米観測陣が、その瞬間の撮影に成功。東日本各地でも日食を見ることができた。写真は煤をつけた、いわゆるいぶしガラスで、日食を観る家族。

証言・あの日この日

竹内 好(37)

1月31日(土) 〈快い疲労感、学生のころの試験のあとのような気持ち。あてもなく町を歩く。うまそうな食物など豊富に売っているが何もほしくない。ただ充足感にひたっている。こみあげてくるうれしさ。考えてみれば、よくも書けたものだと思う。途中でもう駄目だと思ったことが何べんかあった。どうやら堪えてきた〉(竹内好『浦和日記』)

中国文学者の竹内好は100枚の力作評論を完成させ、編集部に原稿を届けた徹夜明けの朝、こう語る。みずからの原稿に精魂こめる彼は、その分、他人に対して厳しい。2月17日、〈「三田文学」を買う。柴田錬三郎の「魯迅」をよむため。くだらなくておどろく〉。8月8日、〈中野好夫が太宰(治)にふれて書いているのは嘔気を催すほどいやらしい。野間(宏)の小説はよみづらくて途中でなげる〉。

(坪内祐三)

毎日新聞社

▲「母の日」祝う(5月9日)皇后誕生日の3月6日を、米国式に5月の第2日曜日に変更。写真は東京の日比谷公会堂前で皇后に花束を捧げる母親たち。

共同通信社

◀「戦争花嫁」の花嫁修業(5月)前年、米国が入国を許可、渡米する日本人女性がふえたが、現実は厳しく離婚や自殺が続出。米国赤十字社は悲劇防止にと渡米前に料理講習会を開いた。

共同通信社

▲サマータイム実施(5月2日)GHQの指導で、この日午前零時を期して時計の針を1時間進めた。9月の第2土曜日まで実施。混乱が多く、昭和27年には不評のため廃止になった。

共同通信社

▼イスラエル独立(5月14日)全国評議会の席上、シオニズムの指導者ベン・グリオンが宣言。アラブ諸国は反発、15日第1次中東戦争に突入した。

昭和23年5月

1(土)●美空ひばり、横浜国際劇場でデビュー。
●海上保安庁設置。巡視艇二八隻、職員一万人。
2(日)●日本で初のサマータイム実施(27年廃止)。
●講道館で第一回全日本柔道選手権大会開催。
3(月)●朝鮮人学校問題が決着。在日朝鮮人連盟が閉鎖校をあらためて私立校として設立申請。
4(火)●集中排除法審査のため米「五人委員会」来日。
5(水)●ソ連から引揚げ再開、サハリンの一五九二人が函館に(6日シベリアの二〇〇一人舞鶴着)。
6(木)●百数十人の高輪マーケットスリ団を検挙。
7(金)●麻薬取締法案決定。中毒者を六ヵ月収容など。
8(土)●専売局、ニコチン利用の砂糖菓子開発に成功。
9(日)●北海道礼文島で金環食を日米合同観測。
10(月)●南朝鮮で国連監視下に単独総選挙実施。
11(火)●都が学童用歯科巡回診療車を開発し公開。
12(水)●厚生省、「母子手帳」の配布を開始。
13(木)●政府、社会党の河上丈太郎の追放確定と発表。
14(金)●イスラエル、独立を宣言。アラブ諸国反攻。
15(土)●七年ぶりインド綿の対日貿易再開と発表。
16(日)●東京でヌード撮影会に四〇〇〇人参加。終了後、公然猥褻の現行犯で主催者とモデル逮捕。
17(月)●政府、経済復興会議に生産三倍、輸出九倍が目標の経済復興五ヵ年計画の試案を提出。
18(火)●米、ドレーパー報告発表。日本の賠償額は約六億六二二四万円(ストライク報告を緩和)。
19(水)●GHQ、グルー『滞日十年』など初の翻訳許可本一〇〇冊の書名を発表。
20(木)●ロングスカートとリーゼント流行と新聞に。
21(金)●東京・銀座の展覧会で法隆寺百万塔など盗難。
22(土)●物価庁、マダイなど高級魚の公定価格廃止。
23(日)●絹業使節団、仏の第七回国際絹業大会へ出発。
●経済安定本部、石炭増産・外国援助増大・食糧事情好転などで経済再建着手の情勢と発表。
24(月)●衆院文教委、教育勅語の回収申し入れを決定。
25(火)●山梨県旭村村長に初のリコール投票(否決)。
26(水)●東京で全国ファッション・コンクール開催。洋裁学校生など四〇〇〇人が来場。
●文部省、明治天皇行在所、行幸所、大本営など全国三七九ヵ所の史跡指定を解除。
27(木)●米大統領、マ元帥の帰国を希望と表明。
28(金)●大相撲夏場所で大関東富士が初優勝。
29(土)●貝谷八百子バレエ団、「サロメ舞曲」を初演。
30(日)●利根川の堤防復旧、延べ五六万人を投入。
31(月)●国際ペンクラブ、日本の復帰を承認。

日録 20世紀 1948 6月

◀**ベルリン東西に分裂（6月24日）**ドイツの東側を占領するソ連がこの日、西ベルリンに通じる陸路を封鎖。26日から米軍が食糧、生活品などを空輸、パラシュートで落下させる作戦をとった。写真は空輸を喜ぶ子どもたち。

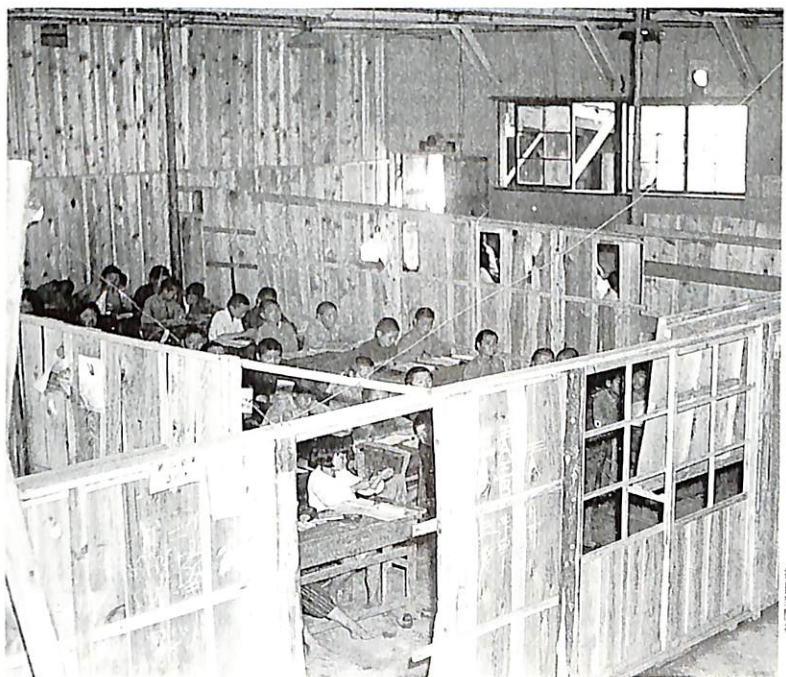
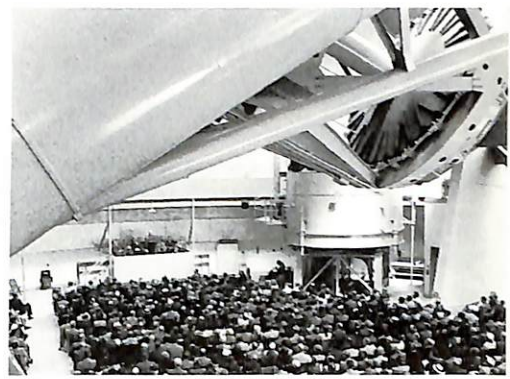
bpk／ユニフォト・プレス

▼**パロマ山天文台完成（6月3日）**米カリフォルニア州で、主鏡口径5メートルの巨大な反射型望遠鏡をおさめたドームの開所式が挙行された（写真）。はるか10億光年先の宇宙の捕捉が可能で、観測範囲が8倍に拡大した。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▼**教室争奪戦（6月）**空襲で校舎を焼失した都市の学校は多く、六・三制の新体制で授業を行おうにも教室の絶対数不足のため、二部制、三部制でしのいだ。写真は大田区の中学校の授業風景。教室は近くの自転車工場の演芸場だった。

毎日新聞社

毎日新聞社

▲**戦後初の高校生集団登山（6月3日）**長野県立大町南高校生450人が、ズック靴にゲートル巻き姿で北アルプスの白馬岳などを踏破した。写真は燕岳山頂の生徒たち。

◀**「命売ります」（6月）**東京・有楽町の数寄屋橋欄干の貼り紙。「重労働不可、ご用命の方、帝国ホテル前まで、当方健康」などが読める。2月にも名古屋で「命5万円で売ります」と広告した青年が登場。就職難とインフレは深刻だった。

毎日新聞社

昭和23年6月

1（火）●東京急行電鉄から小田急・京王・京浜急行の三社が分離独立。
●副総理の西尾末広、清水組からの献金は「書記長個人として」受領と証言（流行語に）。

2（水）●文部省国語審、新字体四一七字などを答申。

3（木）●長野県立大町南高校の生徒四五〇人が、北アルプスを戦後初の集団踏破。

4（金）●商工省、五月の硫安生産は十万一千余トンで戦前の最高水準に迫ると発表。

5（土）●国会図書館、赤坂離宮内に仮開館。

6（日）●ダービー開催。売り上げ一億円の新記録。

7（月）●国労、手当など要求し鶴見線で終日スト（国鉄初の全線スト。以後波状スト続く）。

8（火）●小河内貯水池、地元との妥協なり工事再開。

9（水）●南原繁東大総長が天皇退位に言及と報道。

10（木）●市川進之介ら、戦後初の「忠臣蔵」公演。

11（金）●家永三郎・朝永振一郎らに日本学士院賞授賞。

12（土）●小畑実「長崎のザボン売り」発売。

13（日）●太宰治、玉川上水で山崎富栄と入水自殺。
●古橋広之進、八〇〇メートル自由形で世界新。

14（月）●東京都などが「子供話の泉」第一回大会開催。

15（火）●売春容疑者の臨検・強制検診などを廃止。

16（水）●大学・高専自治会、授業料三倍値上げに反対して全国一斉同盟休校を決定（26日実施）。

17（木）●訪印使節団、インド綿輸入契約結び帰国。

18（金）●福岡県の勝田炭鉱でガス爆発。六〇人死亡。
●都内小学生の七四％に寄生虫と判明したため、都内の全小中高生に検便実施、と新聞に。

19（土）●「日刊スポーツ」紙の「米国の裸体ショー」が初のプレスコード違反に問われ憲兵法廷。

20（日）●都、河川管理上、堤防農園を強制撤去と発表。

21（月）●極東委員会、日本人技術者の海外渡航を許可。

22（火）●文部省、国立大学設置案を決定。各県一校。

23（水）●東京地検、昭和電工社長を贈賄容疑で逮捕。

24（木）●ソ連、陸路を完全に遮断しベルリン封鎖（26日米英など生活物資空輸を開始）。

25（金）●建設院、住宅の新築制限緩和を発表。

26（土）●閣議、競馬を国営・県営の二本立てと決定。

27（日）●全国PTA協議会結成。

28（月）●福井にM七・一の大地震。三七六九人死亡。

29（火）●衆院裁判官訴追委、静岡地裁の天野判事の訴追を決定（初の裁判官弾劾）。
●コミンフォルム、ユーゴ共産党を除名。

30（水）●米で開発されたトランジスタが公開される。

20世紀博物館

太鼓館 東京・台東区

古今東西の祭りを浮かび上がらせる音のワンダーランド

桑原茂夫

▶たまたま館を訪れていた若者が、さっそく南方の打楽器の音を楽しんでいた。

▼日本の"楽太鼓"でみごとな装飾がほどこされている。これを大型化したものが、いわゆる火焔太鼓である。

乙咩雅一

◀和太鼓のコーナー。奥の大きな鼓は、胴が張り合わせでできているので、音の響きがよくない。やはり胴は手前の長胴太鼓のようにケヤキをくりぬいたものでないと、いい音が得られない。

戦争によってとだえたもののひとつに"祭り"がある。死を賭して戦っている時に、歌舞音曲などまかりならぬというわけだが、それ以前に人々は心身ともに疲れはてて、とても"祭り"どころの騒ぎではなかったろう。

しかし終戦とともに、次第に元気を取り戻し、活を求めるようになる。そして"祭り"の復活があった。町や村に、祭り囃子が聞こえ、太鼓が力強いリズムを刻んだのである。

この「太鼓館」を支えているのは、江戸時代・文久元年（一八六一）から太鼓や神輿など祭礼具の製造販売を手がけてきた、宮本卯之助商店。先々代のご主人の戦時における冷静な配慮が、祭り復活に大きな力となった。いつか戦争が終わる時、再び"祭り"が求められると確信し、製造機材などを茨城県の土浦に疎開させ、そこで太鼓の胴などを製造し続けていたというのだ。

ちなみに、胴の素材となるケヤキを伐り出してから、中をくりぬき、仕上げるまでに一〇年はかかる。太鼓作りは、中断するわけにはいかないのだ。せめて胴だけでもと作り続けたのはさすがで、賢明な選択だった。戦争が終わって、"祭り"を求める人々の気持ちに、ただちにこたえることができたからだ。

太鼓館の一角に、彩色したドラム缶が数個、セットになって置かれている。自分たちの太鼓を取り上げられた黒人たちが、太鼓への思い断ちがたく、廃棄されたドラム缶を入手し太鼓として使ったものだという。それにしても、なぜその黒人たちは太鼓を取り上げられてしまったのか。一説では、黒人たちを支配した少数の白人たちには、彼らの太鼓の音が反抗のアジテーションのように聞こえたからだという。さもありなん。腹に響く太鼓の音は、たしかに心を揺り動かすところがある。

太鼓館室長の越智恵さんは、もともと音楽大学ピアノ科の出身で、古楽器に魅せられて博物館の世界に入った女性。太鼓にかかわってから、こうした太鼓の深みに触れ、すっかりそのとりこになってしまった。

この博物館は昭和六三年に開館するまで、準備に七年間かかったという。もともとは宮本卯之助商店が世界各国から収集してきた太鼓などを一般公開するというレベルの話だったのが、越智さんを迎えて次第に本格化し、今では収蔵品六百点余、学問的にも貴重な太鼓が勢ぞろいするにいたった。

祭りに使う長胴太鼓はもとより、火焔太鼓、朝鮮半島や中国大陸の宮廷に飾られていたであろう太鼓、アフリカのいろいろな種族が用いている、それぞれに独特な形状や音を持つ太鼓、パプアニューギニアの木をくりぬいて作った大きな太鼓等々……。

これらの大部分が剝き出しで置いてあり、手に触れることができるばかりか、かなりの太鼓は、その場で軽く叩いて音や手ごたえを楽しむことができる。

古今東西の太鼓が幻の"祭り"を浮かび上がらせる、ここはまさに音のワンダーランドなのである。

●**太鼓館**
東京都台東区西浅草二－一－一
宮本卯之助商店西浅草店ビル四階
☎〇三－三八四二－五六二二
地下鉄銀座線田原町駅下車、徒歩二分
開館時間＝一〇時～一七時
休館日＝月・火曜日
入館料＝一般三〇〇円

▲手前は前世紀イギリスのティンパニー。中央で叩いているのが、太鼓学者でもある越智室長。

ベストセラー

価値が転倒し混乱する社会にアピールした太宰治の『斜陽』

この年ベストセラーとなった太宰治の『斜陽』は、雑誌「新潮」に連載され、前年末に単行本となって刊行された。連載中から好評だったこともあって、発売と同時にベストセラーに名をつらねただけでなく〝斜陽族〟という流行語を生み出しさえした。戦争と敗戦で大きく揺れ動く社会に翻弄されながらも、根底では力強く生きる人々を描いた作品は、太宰自身が直面した現実をもとに書かれた。

太宰はこの年さらに、文壇への真っ向からの挑戦ともなる志賀直哉批判を展開するなど、自棄的な雰囲気を漂わせていたが、六月一三日、『斜陽』執筆中に知り合った女性（山崎富栄）と玉川上水に入水心中し、世間に大きな衝撃を与えた。

一方、淡々と時代小説を書き続ける吉川英治は、この年『親鸞』の再刊（昭和一三年講談社刊のもの）を認め、これがベストセラーになった。

権威と世俗的なものにまみれた仏教の世界に敢然と挑み、真に人々とともにある宗教をめざした青年僧・親鸞の物語は、吉川英治のいわば永遠のテーマだった。すでに三〇歳代の新聞記者当時に、新聞連載の形で書いている。これは単行本として刊行されようとした時、関東大震災にあって、製本した状態で焼失。やがて四〇歳代に入って、再度筆をとり、これは刊行されたものの、吉川自身は気に入らず、いつか書き改めることを読者に宣言していた。しかし終戦直後、出版社の要請で、加筆修正し刊行することになったもの。

また、この年は翻訳物がよく売れた。レマルクの『凱旋門』は、ナチスに迫害された青年医師の復讐譚で、この時代にベストセラーになる要件を備えていた。

●昭和23年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	「斜陽」（太宰治／新潮社）
2位	「愛情はふる星のごとく」（尾崎秀実／世界評論社）
3位	「凱旋門」（E·M·レマルク／板垣書店）
4位	「新書太閤記」（吉川英治／六興出版社）
5位	「罪と罰」（F·M·ドストエフスキイ／河出書房）
6位	「女の一生」（G·モーパッサン／河出書房）
7位	「親鸞」（全3巻／吉川英治／講談社）
8位	「若きヴェルテルの悩み」（J·W·ゲーテ／河出書房）
9位	「漱石全集」（全28巻／夏目漱石／岩波書店）
10位	「復活」（L·N·トルストイ／河出書房）

全国出版協会出版科学研究所

日本近代文学館提供（三点とも）

▲『凱旋門』上巻（30円）、下巻（75円）

▲『斜陽』（70円）

▲『親鸞』（3月発行の講談社版で、上中下各100円）

スターと名場面

破滅に向かうやくざ役で熱演 三船敏郎と「酔いどれ天使」

この年、スター三船敏郎（二八）が誕生した。より正確に言うと、黒澤明監督とのコンビ第一作が公開されたのである。作品は「酔いどれ天使」で、飲んだくれの医師（志村喬）と、結核に冒されたやくざ（三船敏郎）との不思議な交流を描いたもの。戦争の影を色濃く落とす町が舞台で、町に巣くうやくざもまた、戦争の落とし子のように見える。三船敏郎は、戦争の時代を突っ走り、終戦後、破滅に向かって加速する青年のやりきれなさを演じて、同時代人の共感を得た。当時はまだ、結核がほとんど不治の病であったことも、三船敏郎の演技に絶望的な雰囲気を与えたと言えよう。

吉村公三郎監督の「わが生涯のかがやける日」（脚本・新藤兼人）でも、軍人からやくざに身を落とした青年（森雅之）が、主役として描かれている。その恋人役の山口淑子も、友人役の宇野重吉も、敗戦後の時代の波に翻弄される若者の雰囲気を持っていた。

小津安二郎監督もこの年、戦争が生み出す悲劇を真っ向からテーマにした映画「風の中の牝鶏」を撮っている。また、清水宏監督が戦災孤児自身を出演させた「蜂の巣の子供達」も注目された。

ほかに次のような映画が公開された。かっこ内はおもな出演者である。

「手をつなぐ子等」（笠智衆、杉村春子）「肉体の門」（轟夕起子）「夜の女たち」（田中絹代）「王将」（阪東妻三郎）「鐘の鳴る丘・隆太の巻」（佐田啓二）

黒澤プロ　東宝提供

▲「酔いどれ天使」で、黒澤明監督に高く評価された三船敏郎（左）と、その相手役を熱演した志村喬（右）。

松竹提供

▲戦争で心に傷を負った男の森雅之（左）と、戦後社会を力強く生きる女の山口淑子（右）。「わが生涯のかがやける日」から。

▶「風の中の牝鶏」で、夫婦役を演じた佐野周二（右）と田中絹代（左）。

松竹提供

モノ語り'48

新時代を感じさせる「セロテープ®」「折畳椅子」そしてアメリカ・タイプの化粧品「ゾートスフィニシーン」

▲家庭のエネルギーに七輪の復活　終戦直後の家庭で必要なエネルギーのかなりの部分は、薪や木炭から得ていたが、木炭を使って煮炊きする道具として土製の「七輪」（しちりん）が大いに活躍した。胴体の中ほどに仕切りがあり、その上に新聞紙や木ぎれなどを置いて火をつけ、消し炭を用いながら木炭を燃やした。仕切り下部には小窓があって、火勢を強めたり弱めたりするための空気の量を調節できた。　台東区立下町風俗資料館提供

▼ゼンマイを巻かなくても走るおもちゃの自動車　ブリキ製の自動車を手に持ち、ゴムのタイヤを床に押しつけるようにして何度も回転させてから手を離すと、車が走り出す。ゼンマイを巻かなくても車が走るという、この画期的なおもちゃは「フリクション自動車」と称した。車体の中のフライホールという鉛のはずみ車に回転を与え、その回転惰性で走った。当初はもっぱら輸出用だった。　日本玩具資料館提供

▼書類整理に革命をもたらしたアイディア　書類の保存整理法として一般的だった紐綴じに代わり、枚数の多い書類でもしっかり綴じることのできるファイルが登場した。リヒト産業（現・LIHIT LAB.）の「スプリングファイル」である。書類中央の2穴に通すコイル状のスプリング支柱が自在に屈折し、その弾力で書類を完全にはさみこむ仕組み。表紙は強靭なプレスボード紙使用。2穴パンチ用で発売当時の価格は不明だが、昭和32年の時点では1冊90円だった。

▲化粧品に〝アメリカ〟の匂い　アメリカのゾートス社の名前を冠して、資生堂から販売された「ゾートス化粧品」は、パッケージの色、シンプルなデザイン、大型化された容器など、すべてに〝アメリカ〟の匂いを漂わせていた。販売されたのは乳液、白粉、口紅など8品種だったが、中でも画期的だったのが「ゾートスフィニシーン」という油性のクリーム白粉（左端中央）。肌に光沢が出ることから「光る化粧」と呼ばれて評判となった。各250～500円。

▲共同募金に赤い羽根の登場　昭和22年、社会事業共同募金中央委員会が発足し、一般から社会福祉のための基金を募る運動が開始された。募金者には、稲穂をかたどった真鍮のバッジを渡していたが、コストが高いこともあって、翌23年からは、赤い羽根が使われることになった。赤い羽根は、アメリカの一部ですでに共同募金のシンボルとなっていたが、ヨーロッパでは中世から、勇気の象徴、善行のしるしとして伝えられていたという。　中央共同募金会提供

▼GHQもびっくりしたセロハンテープの品質　GHQの要望で日絆工業（現・ニチバン）が開発したセロハンテープは、巻いた状態では熟れたバナナのような黄色だが、実際に使うと透明で、その品質が高く評価された。かくしてこの年6月には市販を開始、商品名を「セロテープ®」とした。ただし販売当初は、その用途が理解してもらえず苦労したというほど、まったく新しいものだった。1個150円。

▲新しい時代が生んだアイディア商品　飛騨産業の「折畳椅子」は、斬新なデザインと、その使いやすさから好評を博し、昭和40年まで続くロングセラーとなった。それまでの折り畳み椅子と違い、長いサイズの木材を使用しない工夫がほどこされていた。そのためこの時代でも量産が可能で、需要に応じられたことも、よく売れた要因。背もたれの2本の横木や、腰かけ部分に張られたレザー加工の布と、木の風あいの対比もモダンである。1脚500円。

人物クローズアップ

沢田美喜（四六）

「神の声」を聞いて〝混血児の母親〟に「エリザベス・サンダース・ホーム」開園

昭和二三年二月一日、沢田美喜（四六）が神奈川県大磯に混血児養護施設「エリザベス・サンダース・ホーム」を開園した。英国国教会系の、日本聖公会に所属するキリスト教徒の沢田は、ホームの名を、同じ日本聖公会の会員で、その半生を日本の聖母院に捧げたエリザベス・サンダースにちなんで名づけたのだった。

敗戦から約二年半、復興という言葉とは裏腹に、日本にはいまだ多くの問題が、手つかずのまま残されていた。そのひとつが、米占領軍兵士と日本人女性との間に生まれた、混血児の問題だった。

沢田美喜は、明治三四年九月一九日、東京・本郷に、三菱本家・岩崎久弥の長女として生まれた。大正五年、東京女高師付属高女（現・お茶の水女子大附属高校）を中退、同一二年、外交官の沢田廉三と結婚した。そして彼女は、外交官の夫と海外生活を送るうちに、キリスト教の信仰を得るようになったのである。

沢田が混血児のための施設を作ろうと決意したのは、ちょうど一年前の、昭和二二年二月に起こったある出来事がきっかけだった。その日、沢田は東海道本線の下り夜行列車に乗っていた。列車が関ケ原にさしかかった時、闇物資を取り締まるため、車内に二人の警官が入ってきた。ちょうどその時である。紫色の細長い風呂敷包みが、沢田の手元に落ちてきた。それを網棚に戻した沢田に、警官は疑いを持った。「包みを開けろ！」。自分の包みではないものの、言われるままに沢田はそれを開いた。ところが、中からは幾重にも新聞紙にくるまれた黒い乳児の死体が出てきたのである。結局、警官の疑いは晴れたが、沢田はその時、いっときでもその子の母親に間違えられたのなら、なぜお前を必要としている全国の子どもたちの母親になってやれないのか、という「神の声」を聞いたと言う。

開園したホームには、まず六人の子どもが送られてきた。一〇〇人を超えたのはあっという間だった。資金の調達も困難をきわめ、宝石から庭の石灯籠にいたるまで、身のまわりのものはすべて売り払った。占領の落とし子を一ヵ所に集めるのは目立ちすぎるとするGHQ（連合国総司令部）の妨害の中、寄付集めに奔走した。さらに、そのために渡米した回数は一八回におよぶ。沢田は気丈だった。

「とにかく、何事にもてきぱきとした方で、きっちりとしていました。それにユーモアがあって、子どもたちをいつも笑わせていました」。昭和三二年から保母をしている細見妙子さんの沢田評である。

さらに、世界中に広がる沢田の人脈が、彼女を支えた。親友である作家のパール・バックは、アメリカでの混血児の養子縁組を引き受けてくれた。また、歌手のジョセフィン・ベーカーは、コンサートの収益金をホームに寄付した。

昭和五五年五月一二日、そんな沢田に死が訪れる。旅先のスペイン・マヨルカ島での、突然の死であった。七八歳。しかし、「エリザベス・サンダース・ホーム」には、沢田の理念がそのまま残された。現在、ホームでは九七人の子どもたちが生活をしている。

◀前列6人の子どもたちが第1期生にあたる。昭和28年、ホームは社会福祉法人として認可され、小学校を併設。さらに3年後には、中学校も開校した。

影山光洋（3点とも）

▼この門から大磯駅を通過する列車が見えるので、沢田園長はよく子どもたちを連れてきた。

▼昭和二九年五月、ジョセフィン・ベーカーは、ホームのため来日。講演をしたうえ、二人の子どもを養子として引き取った。

決定的瞬間

「猛打の二〇年代」のシンボル“背番号3”ベーブ・ルースが最後に球場に立った日曜日

雨がじとじとと降る寒い日曜日。少し前かがみで、だぶだぶのユニフォームを着た選手が、バットを杖にして立っている。顔は見えないが、“背番号3”はベーブ・ルースの背番号である。球場全体がこの老いた戦士を見つめている。

ベーブがここにいる。ただそれだけで、静かな感動が球場を包み、清めているかのようである。一九四八年六月一三日、ヤンキー・スタジアムが完成して二五周年になるこの日、ニューヨーク・ヤンキースのOBたちが球場に招かれていた。この場に居合わせたAP通信のカメラマン、チャンキー・H・ハリスは「絶対に失敗は許されない」と思ったという。

ベーブというのは「赤ちゃん」という意味で童顔のためこうあだ名された。本名はジョージ・ハーマン・ルース・ジュニア。しかし、誰もジョージとは言わない。赤ん坊のような男が、一九一四年に大リーグ入りしてから、一九三五年に引退するまでの二〇年余り、アメリカ人の心を魅了し続けたのだ。成績は、通算打率三割四分二厘、ホームラン七一四本、四球二〇五六、打点二二〇九、三振一三三〇。

彼がニューヨーク・ヤンキースに入団した一九二〇年頃から、彼の放つホームランがファンを魅了するようになった。それまでの「怠けものの四塁打」と言われていた時代から思えば、野球自体が大きく変化してきたと言えるだろう。センターの後ろにある観覧席は「ベーブ・ルース村」とはやされ、高く舞い上がる打球は国家的なシンボルとなった。ベーブが打つとほかの選手もホームランを打ち始め、マスコミはこの時代を「猛打の二〇年代」と名づけた。観客はホームランを期待して球場に殺到するようになった。

一九二五年からは、三番がベーブ・ルース、四番がルー・ゲーリッグというオーダーが組まれ「百万ドル打線」と言われるようになり、ヤンキースの黄金時代が到来した。一九二七年にベーブは六〇本のホームランを打った。

そんな彼も老いた。一九四六年に癌に冒され入院、全国から三万通の見舞いの手紙が来た。こうした手紙に励まされて、少し持ち直すこともあったが一進一退が続く。病魔に冒され、球場に姿を見せなくても、彼の人気は衰えなかった。ベーブはたんなる一人の野球選手ではなくなっていたのだ。

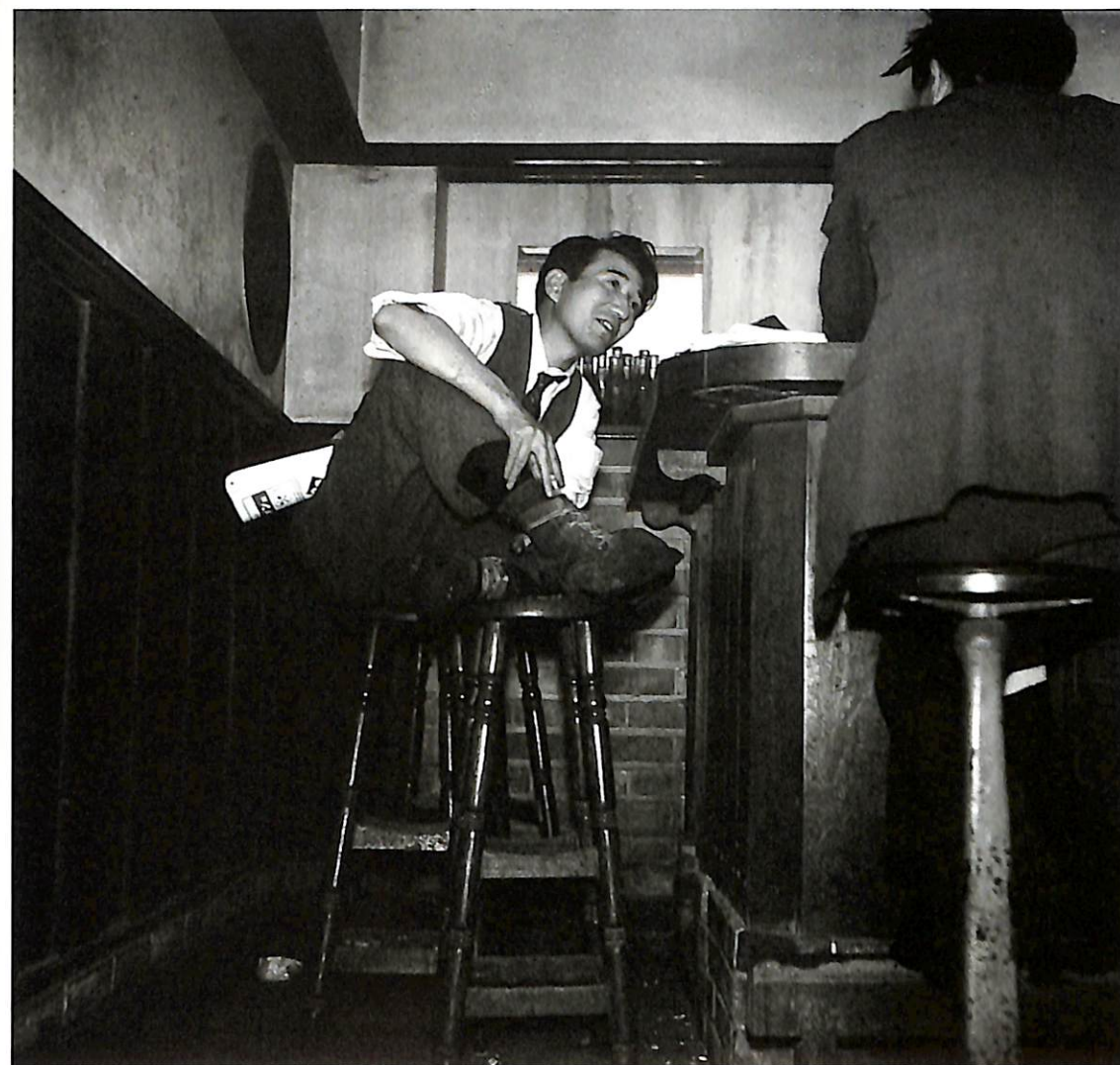
こんなエピソードがある。一九二九年に大統領になったフーバーが少年にサインを求められた。少年が紙を三枚差し出したので「残りの二枚は友達にあげるのかい」と聞くと、「一枚はぼくのだけど、後の二枚でもっとすごいサイン、ベーブのサインと交換するんだ」と言う。大統領は苦笑いしたそうだ。「大統領の二倍の価値を持つ男」ベーブ・ルースは、この写真の日から約二ヵ月後、八月一六日に死亡した。五三歳であった。

▲ベーブ・ルースのバッティング・フォームは、ゴルフのスイングに似ていたとも言われる。 PPS

▲ベーブは大観衆の待つ寒い球場に姿を見せ、挨拶をして静かに立ち去る。ロッカー・ルームでは仲間に、「俺はもうじき死ぬんだよ」と言ってビールを一口飲んだ。

CORBIS-BETTMANN/PPS

美の出会い

林忠彦の"文士シリーズ"開始 銀座の酒場「ルパン」に坂口が、太宰が、織田作が集う

▲昭和22年秋「ルパン」の椅子に、立て膝で座りこむ太宰治。自殺後、ファンがこの椅子に座りに来たという。　林忠彦

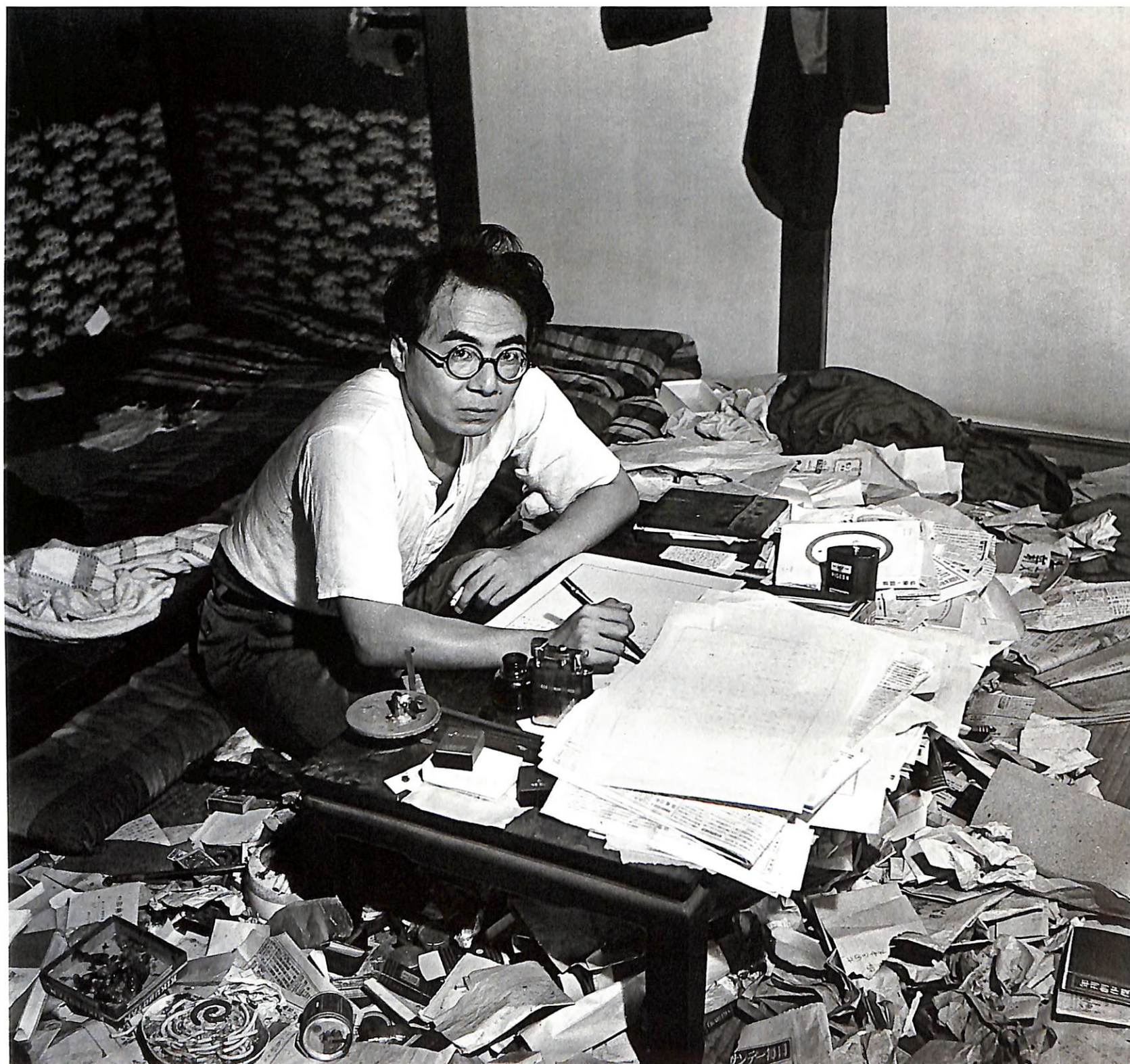
昭和二三年一月号から「小説新潮」の巻頭口絵で"文士シリーズ"が始まった。第一回には太宰治（三八）、坂口安吾（四二）、石川淳（四八）が載って評判を呼び、これらの写真を撮った無名のカメラマン林忠彦（二九）は、一躍マスコミ界の注目をあびることになった。

戦中は北平（現・北京）の華北広報写真協会で中国の戦線の様子などを撮影していた林は、昭和二一年五月、日本に引揚げてきたが、写真館を経営していた山口県徳山市の実家は戦災にあい全焼。林は友人からカメラを一台借りて上京した。

東京に着いた林は、知り合いの編集者を訪ね、写真の仕事を探し歩いた。この頃の出版界は、「新生」「世界」が創刊、「中央公論」「改造」「文藝春秋」「婦人公論」などの雑誌が次々と復刊される一方、性風俗を扱った"カストリ雑誌"が氾濫していた。この雑誌ブームに助けられて、林はたちまち月に二十数本の雑誌をこなすほど、多忙の身となる。

こうした忙しい日々を送っている頃、林が仕事の連絡場所にしていた銀座の酒場「ルパン」には、作家や編集者がよく飲みに現れた。当時「土曜夫人」を「読売新聞」に連載していた織田作之助も、そうした作家の一人だった。血を吐きながらも酒をぐいぐい飲んでいる織田を見た林は、「この男はもう死ぬな」と直感し、「ぜひ撮らせてくださいよ」と申し出てシャッターを切った。忙しい雑多な注文仕事をこなす中で、この写真は林がテーマを決めて撮影していくきっかけとなる決定的な写真だった。

同じ「ルパン」に織田や坂口安吾らが来ていた日、安吾の隣でベロベロに酔っている男がいた。彼は「織田作ばかり撮ってないで俺も撮れよ」とわめいていた。その男が太宰治である。林はひとつだけ残っていたフラッシュをたいて撮った。このギリギリの一枚が、後に数百回も使われることになる林の代表作になるとは、誰も想像だにしなかった。その後、ごみの山にうずもれて仕事をする坂口安吾ら、文士十人余を撮った頃、新潮社の小林博から声がかかり、"文士シリーズ"の連載が決まったのだった。

▲昭和24～25年頃、銀座で撮影された若き日の林忠彦のポートレート。　笹本恒子

▲坂口安吾が同棲中の女性にも見せたことがないという書斎に、林は「新しいカメラを買った記念に」と、強引に入りこんで撮影した(昭和21年12月)。　林忠彦

林がこの頃撮った写真は『カストリ時代』（朝日ソノラマ、現・朝日文庫）にまとめられている。そこには昭和二〇年、東京・品川駅で撮った復員兵に始まり、引揚げ者、占領軍の米兵、パンパン、焼け跡、闇市、盛り場、戦災孤児、浮浪者、靴磨きの子ども、客引き、ストリッパー、芸能人、文士など、昭和二五年までの戦後日本の人間模様が林の深い洞察眼のもとに写し出され、みごとな時代の証言となっている。

林の親友・秋山庄太郎は、「林さんが"男子専科"、ぼくが"婦人科"なんて言われたが、どっちも人間を撮っていたんだ」と言う。「林さんは場面作りや演出も巧みな人だった。演出であろうとなかろうと、そんなことはどうでもいいことなんだ。リアリズムだけが写真じゃないからな。ぼくも吉原の遣り手ばばあと交渉するモデルなど、ずいぶんやらされたな。林さんにはドラマチックなセンスがあったんだ」と秋山は続ける。

この場面作りや演出について、当時一部の間に批判があった。しかし林自身、この頃の一連の写真を振り返って、「この写真群を見ていると涙が出る」と述べているように、これらの写真は撮る側と撮られる側の共感をもとに成立した作品で、そこには見るものの心を揺さぶる強い力が秘められている。その力は今でも衰えることなく光り輝いている。

その後も林は、平成二年一二月に亡くなるまで数々の重病を乗り越えながら、『日本の作家』（昭和四六年）、『日本の経営者一〇〇人』（五〇年）、『日本の画家一〇八人』（五三年）など人物を対象にした写真集を世に送り出した。

「現場」を歩く

玉川上水

作家・太宰治が入水心中した 水深四メートル余もの"急流"の今

山本徹美

昭和二三年六月一九日午前六時五〇分頃、東京・三鷹市を流れる玉川上水でお互いの腰部を赤い紐で結びつけた男女の水死体が発見された。男は作家・太宰治。彼は奇しくもこの日が三九歳の誕生日だった。女は愛人の山崎富栄（二九）。

「二人が入水したと見られる現場は川幅はせまいがひどい急流で深いところは一丈五尺もあり落ちると死体もあがらぬ魔の淵」（「読売新聞」）と当時報じられた、その現場を訪ねてみた。

玉川上水は羽村を起点に淀橋浄水場までの全延長四七キロの水路で、承応三年（一六五四）六月完成。工期はわずか一年間。飲料水供給水路として昭和四〇年まで使用された。その後、昭和六一年まで放水されていない。理由を都環境保全局自然保護部の係官が説明する。

「淀橋浄水場の廃止にともない小平監視所から下流は次第に枯渇しました。ところがその溝にゴミが大量に投棄されるなど汚染が表面化した。そこで水路を清掃した後、現在は下水処理水を流しています」

▲明治以降、近代的水道施設が建設された後も使用された玉川上水は、淀橋浄水場廃止後、立川市砂川から東村山浄水場まで送水。沿道は市民の憩いの場に。　奥村健太郎

▲新聞で太宰の失踪が報じられた後、連日の雨にもかかわらず、川舟まで動員されて捜索が進められた。　毎日新聞社

安らかな死に顔

井の頭公園内をぬける箇所に萬助橋が架かっていて、太宰の遺体はそこから六〇〇メートルほど下流で発見された。かつては四メートル五四センチもの水深があったというが、今は泳ぐ鯉の背びれが露出しているほど浅く、身投げをしてもせいぜい打撲傷を負う程度だろう。

注意して歩いたが太宰の心中を示すよすがとなるものは見当たらない。とうとう旧久我山水衛所跡まで来てしまった。太宰と富栄の下駄がかかっていた鉄柵は今も流れをせき止め、木の葉やビニール袋がたまっている。途中で発見されなかったら、太宰もここまで流された可能性がある。人に会う前、鼻翼の脂を気にするような彼がまるでゴミのように惨めな「死にざま」をさらすことについては気にしなかったのか。

友人の山岸外史が検視に立ち会った時のことを『人間太宰治』に記述している。それによると富栄の表情が、両眼をかっと開き、宙を睨み、叫ぶように開いた口の奥に青紫色の舌が固く踊っていたのに対し、太宰は、唇を軽く結び、眼も静かに閉じ、水を飲んだ形跡がなく「薬品の使用法が巧かった」と指摘している。投身現場には、青酸カリの小瓶があった。やはりデスマスクのことまで気をまわしていたのだろうか……。

太宰の遺骨は三鷹市内にある禅林寺に納めてある。森鷗外の墓があるこの寺を太宰は生前何回か訪れており、「私の汚い骨も、こんな小綺麗な墓地の片隅に埋められたら、死後の救いがあるかも知れない」（「佳日」）と書いた。

墓参してみると、鷗外の墓には自動販売機などで売られているお茶の缶がひとつ供えてあるだけ。太宰の方はバラの花束に、未開封のタバコ一箱とカップ酒、線香の束が煙を上げていた。

白昼堂々、銀行員とその家族12人を毒殺！ "戦争の匂いが強く感じられる" 帝銀事件の「謎」と「闇」

▲青酸化合物を飲まされた行員とその家族は、10人がその場で死亡。6人が救急車で病院へ運ばれた。　毎日新聞社

荒涼たる敗戦後の世相の中で起こった帝銀事件は、空前の難事件だった。一時は迷宮入りかとも騒がれたが、発生から七ヵ月後、冷酷な毒殺事件とはどうにも結びつかない"初老の画家"が逮捕された。いまだ謎に包まれているこの事件は、その後多くの論争を巻き起こし、"戦後最大の冤罪事件"と言われることになる。

「犯行は毒のプロ」説が百八十度の方針転換

昭和二三年一月二六日、東京は朝から降っていたみぞれ混じりの雨が昼にはやんだものの、どんよりとした曇り空で底冷えのする日だった。

東京・豊島区の帝国銀行椎名町支店では、支店長が腹痛で早退し、吉田武次郎支店長代理が留守を預かっていた。「東京都衛生課並びに厚生省厚生部医員、医学博士」という肩書の名刺を持つ"男"が現れたのは午後三時の閉店直後。インテリ風で、四五から五〇歳くらいの目鼻だちが整ったその好男子を、支店長代理

▶事件の舞台となった、武蔵野線（現・西武池袋線）椎名町駅近くの帝国銀行椎名町支店。　毎日新聞社

▶犯行後の椎名町支店内。現場には、鍵のはずされた金庫の中の九万一四二〇円を含めて、計五六万六五四〇円が残されていた。

◀東京地裁被告席の平沢貞通（一二月二一日）。平沢冤罪説も根強く、「平沢貞通氏を救う会」など救援活動も活発に行われた。

は何の疑いもなく営業室に招き入れた。

「長崎二丁目の相田小太郎さんの共同井戸で、赤痢が発生しました。その水を使った人が来行したことが判明したので、GHQ（連合国総司令部）が消毒に来ることになっています。まずは、予防薬を飲んでおくようにとの命令です」

〝男〟は小瓶を取り出し、ピペットで茶碗に液体を注ぎ分けた。紳士に不釣り合いな武骨な手が印象的だったが、落ちついて手慣れた様子だったという。〝男〟は「舌を出し、喉の奥に流しこむように一気に飲むんです」と、みずから第一薬を飲んでみせた。一分後に第二薬を飲むように指示する〝男〟に続いて、行員とその家族一六人は湯呑みを手にした。第一薬を口にした時の焼けつくような苦しさに、全員が競うように台所に向かい、バタバタと倒れていった。奪われたのは、現金一六万四四五〇円三五銭と一万七四五〇円分の小切手一枚。生き残ったのは四人だった。これが、後に「戦後最大の冤罪事件」と騒がれる帝銀事件である。

警視庁は早速、目撃者の証言をもとに日本犯罪史上初のモンタージュ写真を作り、全国に手配している。捜査本部は当初、〝玄人犯行説〟をあげ、軍の毒物兵器関係者を極秘に捜査していた。容疑者は五〇〇〇人とも、八〇〇〇人とも言われている。

ところが、捜査本部は途中から、奇妙な百八十度の方針転換をやってのける。

◀一月三〇日、豊島区池袋駅前で「毒殺魔人相書」に見入る人々。

事件七ヵ月後の八月二一日に逮捕されたのは、軍とは一見何の縁もないテンペラ画家の平沢貞通（五六）だった。実は、犯人は、事件の前年と一週間前に〝予行演習〟とも思える二つの未遂事件を起こしていたが、その際に安田銀行荏原支店に残された名刺が実在する厚生省技官のものだったことで、その名刺交換者の中から浮上したのが帝展（現・日展）入選一六回、無鑑査の平沢だったのである。

逮捕から二日後に平沢と面通しした生き残り四人は「犯人と違う」と証言したが、平沢に詐欺事件の前科があったことがわかると、形勢は一気に不利になる。事件後に持っていた一三万四〇〇〇円の出所が最後まで明らかにならなかったのも致命的だった。結局、平沢がいかにして毒物を入手したか、彼が消毒日時などの占領軍情報をどのようにして知りえたかについては謎のまま、一審、二審ともに死刑判決が下される。最高裁の上告棄却により死刑が確定したのは、事件から約七年後の昭和三〇年五月七日だった。

「帝銀事件は、自白が決定的証拠となった旧刑事訴訟法最後の事件でした。彼の自白にしても、拘禁ノイローゼで刑事に誘導された可能性が高い。ズサンな鑑定、捏造された証拠によって刑が確定したのです」と語るのは、昭和五六年から弁護団長をつとめる遠藤誠弁護士である

捜査の背後にチラつくGHQと当局の〝意図〟

ところが、こうした判決の不透明さがその後の〝シロ・クロ論争〟を巻き起こすことになる。三八年に判決に波紋を投

げかけたのが、成智英雄警部補（事件当時）の手記「平沢は真犯人ではない」だ。この中で成智は、旧関東軍の七三一部隊（細菌戦のための特殊部隊）にいた麻薬中毒の中佐を、犯人像に近い男として指摘。続く四二年には、甲斐文助警部の捜査記録が公表され、事件直後に顧問として招かれた石井四郎七三一部隊長（五六）が、「犯人は軍関係者に違いない」と語っていたこと、七三一部隊が中国などで繰返していた青酸毒物実験の手口が事件と同じだったことなどが暴露された。

当時、犯人逮捕で七三一部隊の存在が明らかになれば、GHQが極東国際軍事裁判で戦犯免責するのと引きかえに、七三一部隊が持っていた細菌戦や生体実験データを独占したことが露見したのは間違いない。坂口安吾は随筆の中で「犯人から強く感じられるのはむしろ戦争の匂いである」と記したが、その〝匂い〟とは、日本軍の戦争犯罪であり、占領政治の暗部だった。要するに「平沢は、GHQの圧力を受けた捜査本部が迷宮入りを避けるために選んだ〝生け贄〟である可能性が高い」（遠藤弁護士）のである。

ところで、いったんは自白をした平沢だが、一審公判の冒頭から昭和六二年五月一〇日に九五歳で獄死するまで、一貫して無実を主張し続けた。

「現在、我々は彼の無実を証明するため、証拠の信憑性を科学で照らしなおしています。国家の思惑で国民一人が葬られることなどいともたやすい。これからだって、〝第二、第三の平沢〟が出ないと誰が言い切れるでしょうか」

そう語る養子の平沢武彦氏は現在、一九回目の再審請求を行っている。

フォト＋日録で再現する366日

月刊沖縄社

▼アイケルバーガー中将辞任(7月9日)米第8軍と日本占領地上部隊の司令官で、日本占領以来アイゼンハワーを助けた。天皇は中将の離任にあたり、夫妻を皇居に招待した。左から天皇、エマ夫人、皇后、中将。

読売新聞社　共同通信社

▲▶東宝争議に戦車が出動(8月19日)東京・砧撮影所を占拠の組合員排除で警官と米軍が出動(写真右)。組合員は退去したが争議は10月まで続けられた。写真上は5月、街頭カンパを募る三船敏郎、久我美子ら。

共同通信社

▼焼け跡走る山笠(7月12日)博多の伝統行事が7年ぶりに復活。福岡軍政部チーム(写真)も加わって、飾山や子供山など8本が福岡市内4キロを走った。昭和21年5月には博多どんたくも復活している。

朝日新聞社

▶大阪にトレーラーバス(7月1日)90人乗りと従来の50人乗りより大型で、ディーゼル車のためガソリン不足にも有効だった。この年、市内に20台が導入された。

◀7年ぶり、両国の川開き復活(8月1日)午後4時開始に隅田川に面した特別席をはじめ、船上や両岸に60万人が集まり、次々に上がる100万円分の花火を楽しんだ。

昭和23年7月

1(木) ●宮内府、宮城の呼称廃止し、皇居とする。
●「沖縄タイムス」紙、ガリ版刷りで創刊。

2(金) ●木原均京大教授、ストックホルムの国際遺伝学会出席のため羽田を出発(国際交流復活)。

3(土) ●学徒援護会、東京・九段に学徒相談所開設(9日までに求職学生が二三四二人来所)。

4(日) ●二三年度予算成立。六月までは初の暫定予算。

5(月) ●グアム島に五年間潜伏の旧日本兵二人が帰国。

6(火) ●GHQ、米軍票交換率を一ドル＝五〇円から二七〇円に改定。この日から実施。
●北朝鮮からの引揚げ終了。総計約三二万人。

7(水) ●酒類値上げ。清酒一級九〇〇円、ビール一五〇円、サントリー角瓶一四〇五円。

8(木) ●元子爵・高木正得、生活苦から遺書残し家出。

9(金) ●消費者米価を一・七九倍に値上げと閣議決定。

10(土) ●被告人の地位を強化した新刑事訴訟法公布。

11(日) ●運賃値上げを前に上野駅の人出が戦後初めて一〇〇万人突破(18日二・五五倍の値上げ)。

12(月) ●福岡市の博多山笠が七年ぶりに復活。

13(火) ●優生保護法公布。妊娠中絶の条件を緩和。

14(水) ●文部省、社会教育への公費援助禁止を通達。

15(木) ●GHQ、新聞社・通信社への事前検閲を廃止。
●GHQ、経済安定一〇原則を提示。

16(金) ●初のエジプト米が横浜に到着。感謝会開催。

17(土) ●運輸省、前年の乗降客最多は大阪駅と発表。

18(日) ●外食券食堂、定食七円を九円五〇銭に値上げ。

19(月) ●共産党書記長・徳田球一、佐賀市で演説中サイダー瓶に詰めた爆発物を投げられ負傷。

20(火) ●国民の祝日に関する法律公布。年九日を制定。

21(水) ●大蔵省、第一封鎖預金六〇〇億円を解除。

22(木) ●東京・板橋区でDDT詐欺事件。約四〇戸に粉をまき手数料五〇円と薬代二〇〇円を詐取。

23(金) ●松坂屋、最高五〇〇〇円の商品券を新発売。
●戦後初のロックフェラー財団留学生に選ばれた保健婦、看護婦ら女性四人、横浜を出港。

24(土) ●四～六月の鉄鋼生産は戦後最高と商工省発表。

25(日) ●日本の対英輸出は全額英貨建てにとGHQ。

26(月) ●東京に鮮魚大量入荷。闇値が公定価格を割る。

27(火) ●米二五宗教団体からの救援物資感謝式を挙行。

28(水) ●松本市浅間温泉で発生の腸チフス患者がこの日までに二二五人に(8月8日まで交通遮断)。

29(木) ●ロンドン五輪開幕。日独は招待されず。

30(金) ●脱税には懲役など厳罰でのぞむと閣議決定。

31(土) ●政令二〇一号施行。公務員のスト権を否定。

証言・あの日この日
森田草平(67)

5月4日(火) 〈日米合資の会社が既に二つ出来た。米の資本は五一と五二パーセンテージなりと。これでアメリカの発言権は日本の口を塞ぎ、日本の殖民地化する初めなり、芦田内閣を初めとして自由党は勿論、社会党までこの売国的行動を防止する勇気も節操も持たない、従って禍いを子孫に残すものであり、子孫はもう一度革命を起こさざるを得ず、今こそ真に日本の危機である……この危機を救うための捨石ともならばやと、おれも終に入党を決心した〉(『森田草平選集』第5巻)

終戦後、出隆や内田巌ら、共産主義と無縁だと思われていた文化人が次々と共産党に入党し話題となった。中でも注目を集めたのが漱石の弟子で、若き日、平塚らいてうとの煤煙事件で有名だった作家の森田草平だ。しかし彼はただの客寄せパンダにすぎなかった。(坪内祐三)

共同通信社

▲花火大会の惨事(8月23日)新潟市の信濃川川開きで、観衆約3000人が万代橋に殺到、欄干とともに約100人が川に落ち17人が死傷、17人が行方不明になった。写真は欄干の崩落箇所と捜索の様子。

共同通信社

▲戦後初の芸術院賞(8月21日)帝国芸術院が日本芸術院と改称、文部省で授賞式を挙行。受賞者は(右から)日本画・伊東深水、音楽・藤原義江(代理)、演劇・杉村春子、雅楽・芝祐泰、能楽・野口兼資、文学・折口信夫(欠席)だった。

毎日新聞社

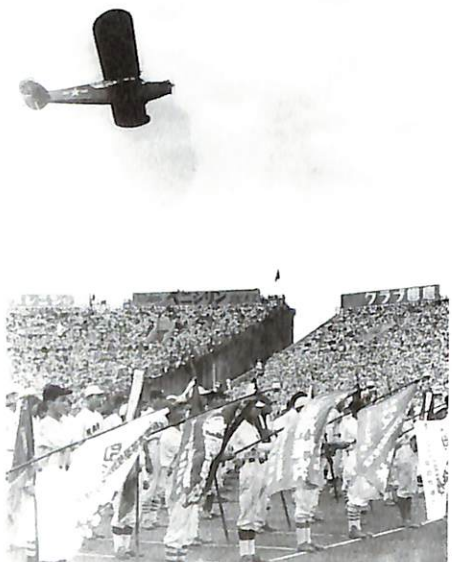
▼銭湯はいつも満員(8月1日)前年夏には2円の入浴料が9月に3円、この年の5月には10円に値上げされた。しかし、燃料不足は解消されず、営業は3～4日に1回のため、いつもごったがえしていた。

共同通信社

◀初めての高校野球大会(8月13日)夏の中等学校野球が名前をかえて甲子園で開催され、23校が参加。開会式には米軍機が白球を投下した(写真)。福岡県小倉高校が、福島一雄投手の5試合連続完封の力投で優勝した。

朝日新聞社

毎日新聞社

▶プロ野球で初のナイター(8月17日)戦後復興計画で造られ、米軍に接収されていた横浜ゲーリッグ球場で、巨人対中日戦が、午後8時8分にプレーボール。光量不足で選手は苦労したが3対2で中日が勝った。

昭和23年8月

1(日) ●NHK「のど自慢」で復員兵が「異国の丘」を歌う(10月竹山逸郎らでレコード化)。

2(月) ●三菱信託が朝日信託銀行、安田が中央など信託各社が名称変更して銀行業務を開始。

3(火) ●都内で日本脳炎流行、患者五一人に(26日までに一七六一人、うち三五一人死亡)。

4(水) ●太宰治の自殺後、玉川上水でこの日までに一三人が自殺(都水道局、鉄条網設置を決定)。

5(木) ●バーレーンへ油槽船出港(戦後初の遠洋航海)。

6(金) ●ロンドン五輪と同日開催の日本選手権一五〇〇メートル自由形で、古橋広之進・橋爪四郎が世界新。

7(土) ●京都地裁、三四万円脱税の電気商に初の実刑。

8(日) ●二二年度高額所得者上位一〇人中七人が「闇長者」で起訴されていた、と新聞に。

9(月) ●渋谷駅前の「忠犬ハチ公」像が再建される。

10(火) ●時事通信社、ロイターと経済記事配信を契約。

11(水) ●京阪電鉄、大阪―京都間に急行を運行。

12(木) ●埼玉県本庄町で町議と暴力団の癒着報じた朝日新聞記者への暴行事件問題化(本庄事件)。

13(金) ●改称後初の全国高校野球選手権大会開幕。

14(土) ●商工省、鉄鋼増産のため利用できる鉄屑の調査・報告を求める新聞広告を出す。

15(日) ●大韓民国樹立。大統領・李承晩。

16(月) ●大リーガー、ベーブ・ルース死去。享年五三。

17(火) ●横浜ゲーリッグ球場でプロ野球初のナイター。

18(水) ●GHQ、造船所での外国船の修理・改装を許可。

19(木) ●東宝争議に武装警官二〇〇〇人、米軍戦車七両、米軍機三機が出動。

20(金) ●三井造船、戦後初の輸出船「クヌール号」進水。

21(土) ●帝銀事件容疑者として画家・平沢貞通逮捕。
●GHQ、二二年度の出生は二百七十一万人余で史上最高と発表(空前のベビーブーム)。
●折口信夫・杉村春子らに戦後初の芸術院賞。

22(日) ●米空軍、ジェット戦闘機の配備を開始。

23(月) ●信濃川の万代橋の欄干崩落、一七人死傷。

24(火) ●電産労組、GHQの命令で停電ストを中止。

25(水) ●サハリンから戦後初の新聞用紙が大量入荷。

26(木) ●物価値上げ反対で奥むめおら婦人団体代表が集まり、東京主婦の会の結成を決める。

27(金) ●九大生体解剖事件で五人に死刑判決。

28(土) ●洞爺湖で遊覧船転覆。二五人死亡・行方不明。

29(日) ●ヘレン・ケラー、一一年ぶり二度目の来日。

30(月) ●傷痍軍人への国鉄無賃乗車証発行廃止を通知。

31(火) ●種なしスイカの量産化に見通しと新聞に。

▲**紙芝居に人気集まる(9月1日)**娯楽が少なかった子どもたちにとって、紙芝居は大きな魅力だった。この頃、紙芝居業者は全国で5万人。「黄金バット」が人気で、戦後の最盛期を迎えていた。

共同通信社

毎日新聞社

▲**ヘレン・ケラー来日(9月4日)**8月に11年ぶりの来日。68歳にもかかわらず、全国各地の講演会で身体障害者福祉法の制定を訴えた。この日渋谷駅前で再建されたハチ公に対面するヘレン・ケラー。

▼**上野動物園におサル電車(9月8日)**カニクイザルは占領軍兵士が寄贈したもの。運賃は35メートルの環状線2周で3円。猛獣の少ない動物園では電車の人気が高く、休日には10万人が入園した。

◀**昭電疑獄、政官界に波及(9月13日)**昭和電工への巨額融資をめぐる贈収賄事件は、大蔵省主計局長・福田赳夫らの逮捕で政官界におよんだ。写真は東京地裁の公判で、右側3人目から福田局長、西尾副総理、日野原昭電社長、二宮興銀副総裁。

東京動物園協会提供

朝日新聞社

▲**アイオン台風(9月15日)**関東・東北地方を襲い、死者512人、行方不明326人の被害が出た。岩手県では豪雨による河川の決壊が多く被害が集中した。写真は16日の東京・亀戸付近。

▶**ローラースケートで生産性向上(9月4日)**戦前並みの生産量回復をめざす岡山県の鐘ケ淵紡績(現・カネボウ)では、ローラースケートを導入。作業効率は従来の6倍にアップしたという。

毎日新聞社

昭和23年9月

1(水)●西独、制憲評議会を開催。議長にアデナウアー。
2(木)●GHQ、石油管理権を日本政府に移譲と発表。
3(金)●スト権否認のマ元帥書簡は「要求」で、立法権侵害はなく政令二〇一号は合憲と政府見解。
4(土)●大蔵省、貿易実績の発表を復活(15年以来)、六月までの輸出入は前年同期の五・八倍。
5(日)●東京・池袋で訪れた三人組が土産として青酸カリ入りカルピスをすすめ、妻を死亡させる。
6(月)●最高検察庁、詐欺などによる国会議員への告発受理五四人、うち一五人を起訴と発表。
●播磨造船呉ドックで旧海軍巡洋艦「利根」の解体終える。旧海軍の全艦艇の解体作業完了。
7(火)●長者番付二位のゴム商を闇取り引きで逮捕。
8(水)●東京・数寄屋橋で「踊る宗教」教祖・北村サヨら二〇人が「無我の舞」を踊る。
●上野動物園で「おサル電車」の営業開始。
9(木)●朝鮮民主主義人民共和国樹立。首相・金日成。
10(金)●GHQ民政局長、全逓の傾斜闘争方式に警告。
11(土)●九都市で輸入コーヒーの希望配給を決定。
12(日)●西日本に水害。二四七人死亡・行方不明。
13(月)●東京地検、福田赳夫を昭電疑獄で逮捕(18日大野伴睦、30日栗栖赳夫を逮捕)。
14(火)●都で大規模な教員異動。女性校長二人誕生。
15(水)●奥むめおらが主婦連合会(主婦連)結成。
●ラジオの契約数が七〇〇万突破、戦前並みに。
●関東・東北にアイオン台風。五一二人死亡。
16(木)●マッチが八年ぶりに自由販売となる。
●岡晴夫「憧れのハワイ航路」発売。
17(金)●元特攻隊員が米の奨学金受け留学のため渡米。
18(土)●全日本学生自治会総連合(全学連)結成。
●木村伊兵衛・土門拳らが日本写真家集団結成。
19(日)●梅原龍三郎、日展休止を主張し審査員辞退。
20(月)●「美しい暮しの手帖」創刊。編集長・花森安治。
21(火)●都が余裕住宅やコーヒーに二割の特別所得税。
22(水)●台風被害の岩手・宮城に一億円の災害対策費。
23(木)●GHQ、外国雑誌の配給自由化を許可。
24(金)●本田技研工業設立。社長・本田宗一郎。
25(土)●永井隆『この子を残して』刊行。
26(日)●竹製バット使用の急映・大下弘に罰金。
27(月)●米水族館へ寄贈の金魚一二尾を世界初空輸。
28(火)●テクニカラーの「ヘンリー五世」封切。
29(水)●農林省、消費者のさつま芋辞退は配給権放棄とし、今後はうまい芋の作付けを決定。
30(木)●東大で最後の「九月卒業式」が開かれる。

毎日新聞社

日本新聞協会提供

◀**吉田首相と佐藤官房長官(10月19日)**この日成立した第2次吉田内閣は、民主自由党の少数内閣のため早期解散をめざし、翌年1月の総選挙で過半数を獲得した。写真は運輸事務次官から転身した佐藤栄作(47、左)と吉田茂。

▲**第1回新聞週間始まる(10月1日)**戦前の報道についての反省から「知る権利」をテーマに開催。7月にGHQが検閲を廃したが事後検閲が残り、各社の自主規制は強まった。写真は行事のひとつ「新聞文化展」を見学する小学生。

▶**初の教育委員選挙(10月5日)**教育委員を住民が選出するという公選制は、教育改革のかなめだった。都道府県と市町村で実施されたが、投票率は56.7パーセント、教育関係者が半数を超え女性の進出が目立った。以後、2度行われ昭和31年から任命制となった。

▶**大物を次々に喚問(10月20日)**政治資金を解明のため、1月衆院に不当財産取引調査委員会(委員長・加藤勘十)を設置、首相や大臣などを喚問した。この日は東久邇元首相が兵器処理問題を糾された。

◀**準A級戦犯裁判(10月29日)**捕虜虐待などで起訴された豊田副武元海軍大将と田村浩元陸軍中将の軍事法廷が開かれた。後に豊田は無罪、田村は有罪になった。

毎日新聞社

毎日新聞社

昭和23年10月

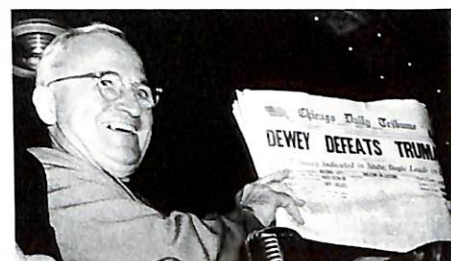
1(金)●警視庁と大阪府警、一一〇番を設置。
●チャップリン、米国下院の非米活動委員会から反米活動の嫌疑を受ける。
2(土)●斎藤秀雄・吉田秀和らが東京家政学院内に子どものための音楽教室を開設。
3(日)●東京の多摩少年院から三四人が集団脱走。
4(月)●文部省、教育長らに米人講師による講習開始。
5(火)●初の教育委員選挙実施。投票率五六・七%。
6(水)●東京地検、西尾末広を昭電疑獄で逮捕。
●東京でパンの自由購入制実施。
7(木)●昭電疑獄で芦田内閣総辞職。
8(金)●電球・歯磨きなど一一種が自由販売に。
9(土)●松竹歌劇団が採用試験実施。競争率二〇倍。
10(日)●ラグビー伝来五〇年記念式典、全国で開催。
11(月)●荻須高徳、画家として戦後初めて渡仏。
●文部省、高校社会科に世界史の新設を決定。
12(火)●産業復興公団が初の旧日本軍の兵器競売を実施。一〇トン戦車が一両五万円。
13(水)●東京都、新宿区戸山ケ原に鉄筋アパート八一棟など大規模住宅建設計画を発表。
14(木)●警視庁、「小説新潮」掲載の石坂洋次郎「石中先生行状記」を猥褻として同誌を押収。
15(金)●主食を二合五勺から二合七勺に増配と決定。
16(土)●小田急、新宿—小田原間に特急の運行開始。
17(日)●電産労組九州地本、初めて送電制限やめる「野放し送電」戦術でスト開始(26日東京でも)。
18(月)●阪東妻三郎主演「王将」封切。
19(火)●民自党単独少数の第二次吉田茂内閣成立。
●東宝争議終結。山本薩夫ら幹部二〇人辞職。
●日本新薬、虫下し剤サントニンの工業化成功。
20(水)●日本芸術院主催となり書も加わった日展開催。
21(木)●仏柔道連盟の招待で川石六段が渡仏。
22(金)●さつま芋配給を月一五日以内に抑制と農林省。
23(土)●闇買い減って家計費三%減と東京都調査。
24(日)●総同盟全国大会、紛糾のすえ西尾会長を除名。
25(月)●八月の争議は二三四件で戦後最高と労働省。
26(火)●東富士は横綱に、増位山は大関に昇進。
27(水)●江藤俊哉、米カーチス音楽院留学のため渡米。
28(木)●GHQ、占領軍に関する流言で日本人六人に重労働などの刑と発表。
29(金)●準A級戦犯・豊田副武らへの軍事裁判開廷。
30(土)●文部省、高校国定教科書『民主主義』を刊行。
31(日)●札幌市が一匹五円で買い上げるねずみ退治の新作戦実施と新聞に。

◀**川上・青田の本塁打王と別所事件（11月15日）**プロ野球は南海が優勝、巨人の川上（右）と青田が25本でホームラン王になった。シーズン後、巨人が南海のエース別所（左の写真）を引き抜く事件が起き、11月27日別所は巨人に入団した。連盟は巨人に罰金、別所に出場停止処分を課した。

読売新聞社

▼**大接戦の大統領選、トルーマン勝つ（11月2日）**共和党デューイの圧倒的な優勢が伝えられていたが、民主党トルーマンは、積極的な遊説と物価政策が評価され、当選した。

WWP

毎日新聞社

◀**明治節から文化の日へ（11月3日）**国民の祝日が決まって初めての「文化の日」、都内の人出は200万人を数えた。皇居前広場の郷土芸能大会では、秋田の竿灯（写真）などが披露された。

▼**交通指導コンクール（12月11日）**前日から始まった第1回交通安全週間のキャンペーンの一環。東京では全国から警官53人が集まり、交通整理の檜舞台・銀座4丁目交差点で腕を競った。

共同通信社

共同通信社

▶**東京駅の八重洲口駅舎完成（11月15日）**東京駅復旧も九分どおり終え、新設された2階建ての八重洲口駅舎の完工を祝って復興記念式が挙行された。

◀**東条らに絞首刑（11月12日）**極東軍事裁判の東京法廷は、A級戦犯25人のうち東条英機ら7人に絞首刑、18人に、終身・禁固刑の判決を下し、12月23日に執行した。岸信介ら19人のA級戦犯は釈放された。

共同通信社

昭和23年11月

1（月）●秩父山中で高木正得元子爵の白骨死体発見。

2（火）●戦後初の文化勲章。上村松園が女性初の受章。
●米大統領選でトルーマン再選。

3（水）●国連総会、対日独講和条約作成の要請を決議。

4（木）●神宮球場での巨人創立一五周年記念試合で、ファンが入場口に殺到し少年二人が圧死。

5（金）●閣議、冬期の家庭用電力確保で、不正使用防止、工場の夜間操業停止など緊急対策を決定。

6（土）●全米カメラ展にポラロイドカメラ出品。

7（日）●警視庁、犯行二三〇〇件、九三〇〇万円の列車内スリ団七一人をこの日までに検挙。

8（月）●九月の勤労者世帯収入は九八九二円と総理庁。

9（火）●GHQ、商用に限り日本人の海外渡航を許可。
●京都市でジフテリア予防接種の事故発生と判明。この日までに九三五人発病、六八人死亡。

10（水）●国鉄、一等寝台車を七年ぶりに復活。

11（木）●GHQ、賃上げ抑制のため賃金三原則を発表。

12（金）●東京裁判で最終判決。東条英機ら七人絞首刑。
●文部省、小学校に五段階相対評価採用と通達。

13（土）●警視庁、一四年ぶり大規模特別訓練を実施。

14（日）●ガールスカウト復活し東京で第一回大会。

15（月）●プロ野球リーグ戦終了。優勝は南海。最高殊勲選手は山本（鶴岡）一人監督兼内野手。
●東洋工業、三輪トラック月産五〇〇台達成。

16（火）●八幡製鐵所労組、新給与体系を求め大正九年以来最大の七二時間ストに突入。
●日本コロムビア、米コロムビアとレコード原盤輸入契約を締結。

17（水）●正月の餅米配給は前年の倍一人一キロと発表。

18（木）●六大都市でウイスキーの希望配給を開始。

19（金）●神戸地検、前農相・永江一夫を収賄容疑で逮捕。

20（土）●小倉市で初の競輪開催。

21（日）●旧華族や財閥が財産税対策で手放した絵巻物や屏風絵が寸断されて売られていると新聞に。

22（月）●上野公園視察中の田中警視総監に男娼が暴行。

23（火）●第一回全日本合唱コンクール開催。

24（水）●警視庁、二七百円札五〇〇枚の偽造犯を逮捕。

25（木）●東急、一五〇人乗りトレーラーバスを運行。

26（金）●政府、都会地転入抑制の全面解除を決定。

27（土）●南海の別所昭（毅彦）投手、巨人へ移籍。

28（日）●物理学者I・ラービら米科学使節団が来日。

29（月）●海員組合、四八時間スト突入。全船舶が停船。

30（火）●歌人・川田順、人妻との恋愛問題から家出（「老いらくの恋」と話題に）。

日本自転車振興会提供

▲**小倉で初の競輪開催（11月20日）**地方自治体の復興資金捻出のために開催された。物珍しさもあって4日間で約5万5000人が入場。一躍、競馬をしのぐブームとなり、以後、5年間で63の競輪場が各地に開設された。

▶**老いらくの恋実る（12月4日）**66歳の歌人・川田順は、11月弟子の大学教授夫人の鈴鹿俊子（40）と家出・同棲したが、この日結婚を家族に認められた。家出の際友人に贈った歌の一節「老いらくの恋」が流行語になった。

毎日新聞社

▲**酔いどれ大臣（12月13日）**第2次吉田内閣の泉山三六蔵相（中央）は、参議院食堂で酒を飲み乱行、民主党の山下春江議員にキスしたうえ、衆議院本会議を欠席。翌日議員を辞職した。

毎日新聞社

▲**芦田前首相、逮捕（12月7日）**6日衆院の承認でこの日憲政史上初の前首相（中央）逮捕となった。復興金融公庫の融資をめぐる昭和電工からの収賄容疑だったが、33年に無罪が確定した。

毎日新聞社

▲**街頭に立つ傷痍軍人（12月）**白衣姿でギターなどを弾き道行く人に募金を呼びかけた。国立病院には32万人の傷痍軍人が入院中で、治療費などは無料だったが、日々の現金や更生資金が不足していた。写真は東京・浅草。

▼**田中角栄逮捕（12月13日）**前法務政務次官の田中角栄（30）が、炭鉱業者から100万円の提供を受けて、炭鉱の国家管理法に反対したとしてこの日逮捕された。後に無罪となったが、疑惑は解明されなかった。

共同通信社

昭和23年12月

1（水）●松竹新喜劇、大阪中座で旗揚げ公演。

2（木）●東京裁判で終身禁固の木戸幸一、東郷茂徳ら五人が米連邦大審院に訴願（20日却下）。

3（金）●東京・杉並で盗電発見された僧が検針員殺害。

4（土）●東京・銀座で初の場外馬券発売。

5（日）●全国八千余の校舎が不法占拠中、GHQが政府に占拠者移転を命令、と新聞に。

6（月）●警視庁、初めて女性看守二四人を採用。

7（火）●警視庁、前首相・芦田均を昭電疑獄で逮捕。

8（水）●大妻女専校長・大妻コタカらの追放確定。

9（木）●GHQ、米で分離された結核の特効薬・ストレプトマイシン菌を厚生省に手交。

10（金）●国連総会、「世界人権宣言」を採択。

11（土）●吉田首相、非米活動委まねた「非日活動委員会」の設置を研究中と答弁。

12（日）●衆院、炭鉱国管事件で収賄容疑の前法務次官・田中角栄の逮捕を許諾（13日逮捕）。

13（月）●蔵相・泉山三六、国会内で泥酔（14日議員辞職）。

14（火）●大日本仏教会、国鉄各駅のクリスマスツリーは信教の自由を侵すと内閣に質問書提出。

15（水）●年賀郵便が九年ぶりに復活し受付開始。

16（木）●中国共産党軍、北平（現・北京）へ無血入城。

17（金）●国連、イスラエルの加入要請を拒否。

18（土）●米政府がマ元帥に経済安定九原則実施を指令（19日マ元帥、政府に九原則の実行を指示）。

19（日）●オランダ、インドネシアとの停戦協定破棄し首都に侵攻。スカルノらを逮捕。

20（月）●帝銀事件初公判で平沢貞通、容疑を全面否認。
●東芝労連、融資拒む帝国銀行に小銭の預金と引き出しを繰り返す「嫌がらせ戦術」実施。

21（火）●家庭裁判所の設置決定（24年1月実施）。

22（水）●初の日本学術会議会員選挙。二一〇人を選出。

23（木）●衆院、吉田内閣不信任案を可決。衆院解散。
●巣鴨拘置所で東条英機ら七戦犯の絞首刑執行。

24（金）●岸信介・笹川良一・児玉誉士夫らA級戦犯釈放。

25（土）●会津労基署、若松市で子女二十数人の身売りを斡旋した組織を取り調べ。

26（日）●ソ連軍、北朝鮮からの撤退を完了。

27（月）●総人口は八〇二一万六八九六人と総理庁発表。

28（火）●ベネディクト『菊と刀』刊行。

29（水）●人吉市で祈禱師一家惨殺（後の「免田事件」）。

30（木）●GHQ、ジフテリアの予防注射禍で、予防注射を無期限停止し血清など再試験と発表。

31（金）●日銀券残高約三五五二億円。前年比六二%増。

俄楽多市（がらくたいち）

◀男女平等が緒についたばかりのこの年に、ニューファミリーを先取りしたような親子連れが。

共同通信社

流行語

シベリア帰還兵から広がる

「ノルマ」。ロシア語で一定時間内にやるべき作業量や生産数のこと。この年五月、ソ連からの引揚げが再開され、シベリアの収容所で強制労働に従事させられていた人々も初めて帰国した。彼らは強制労働の厳しさを説明するために、ノルマという言葉をしきりに使ったが、それが「個人がはたすべき責任量」という意味で定着した。

「一三階段」。絞首刑を執行する絞首台の階段の数。一一月一二日、東京裁判で東条英機（とうじょうひでき）元首相ら七人に絞首刑が宣告された。それをきっかけに死刑の恐ろしさを示す象徴として、一三階段がクローズアップされた。

「輪タク」。自転車の後ろに幌（ほろ）つきの人力車をつけた〝人力タクシー〟のこと。戦後のガソリン不足の中で登場したが、これが意外な人気で、この年には東京だけで三〇〇〇台、ピークの二四年には四〇〇〇台に達し、全国では一万三〇〇〇台を数えた。

「ロマンスシート」。映画館の男女同伴席のこと。男女が寄りそって座れるというので人気を集め、喫茶店や電車にもロマンスシートが登場した。

ファッション

水着にわらじばきも登場 初のファッションショー

四月五日、戦後初という触れこみのファッションショーが開かれた。ただし場所は銀座のキャバレーで、モデルもすべてダンサー、そして内容もキャバレー・ファッションが中心だ。一般向けファッションショーは五月二六日、神田の共立講堂（きょうりつ）で開かれた。といっても、まだ一般向けの衣料が不足していたので、生地の代わりに、やつでの葉っぱを胸につけたファッションや、水着にわらじばきという珍スタイルも登場した。それでも四〇〇〇人の女性が集まった。（うらべまこと『流行うらがえ史』）

文化

女子高生の〝接吻劇〟が軽犯罪法に触れる？

〔岡山発〕秋の演劇シーズンを迎え、岡山県下の各学校で学生劇がさかんに上演されるが、岡山第一女子高等学校では接吻を取り入れたハルベ作「青春」と題する劇を上演する。同校演劇部では万一を思って岡山東署へ軽犯罪法との関係を問い合わせ、同署では「先生の判断にまかせる」と回答。劇中接吻の場面が二回あり、この種のものを学園で扱うことが正しいか論議を呼んでいる。同校の演劇部教官は「女生徒が男装して女同士でやるから嫌味はない」としているが、岡山東署では「今回は先生の判断にまかせるが、前後の状況などから軽犯罪法に触れる場合もある」と語っている。

（山陽新聞社編『世相おかやま 昭和戦後編』）

アルバイト

ヨーヨー売りで一日一一〇円

八月に学生アルバイト連盟が設立された。職種はヨーヨー、ピーナツ売りなど街頭販売がおもで、時給一〇円、日給一一〇円が相場。（岩波甲三『ヒマラヤ杉が見た日々』）

◀四月一日から、男女共学の新制高等学校が発足。

朝日新聞社

CM100年

雑誌CM「ペニシリン・カセイ」（三菱化成工業、現・三菱化学）

PENICILLIN KASEI SODIUM SALT

ペニシリンカセイ

三菱化成工業株式会社

▲昭和23年、38社がペニシリンの生産を開始。〝夢の万能薬〟が身近なものに。

はやり歌

東京ブギウギ

作詞 鈴木勝
作曲 服部良一

東京ブギウギ　リズムうきうき
心ずきずき　わくわく
海を渡り響くは　東京ブギウギ
ブギの踊りは　世界の踊り
二人の夢の　あの歌
口笛吹こう
恋とブギのメロディー
燃ゆる心の歌　甘い恋の歌声に
君と踊ろよ　今宵も月の下で
東京ブギウギ　リズムうきうき
心ずきずき　わくわく
世紀の歌　心の歌
東京ブギウギ（ヘイ）

さあさブギウギ　太鼓たたいて
派手に踊ろよ　歌おうよ
君も僕も愉快な　東京ブギウギ
ブギを踊れば　世界は一つ
おなじリズムと　メロディーよ
手拍子取って
歌おうブギのメロディー
燃ゆる心の歌　甘い恋の歌声に
君と踊ろよ　今宵も星を浴びて
東京ブギウギ　リズムうきうき
心ずきずき　わくわく
世界の歌　楽しい歌
東京ブギウギ
ブギウギ　陽気な歌
東京ブギウギ
ブギウギ　世紀の歌
歌え踊れよ　ブギウギ

福田俊二（2点とも）

▶笠置シヅ子は、日本人には耳新しかったブギウギを、強烈なリズムにのせて奔放に歌い、大流行させた。

異国の丘

作詞 増田幸治
補作詞 佐伯孝夫
作曲 吉田正

今日も暮れゆく　異国の丘に
友よつらかろ　切なかろ
がまんだ待ってろ　嵐がすぎりゃ
帰る日もくる　春がくる

今日も更（ふ）けゆく　異国の丘に
夢も寒かろ　冷たかろ
泣いて笑って　唄ってたえりゃ
望む日がくる　朝がくる

今日も昨日も　異国の丘に
重い雪空　陽がうすい
倒れちゃならない　祖国の土に
たどりつくまで　その日まで

◀ウラジオストクの収容所で作られたこの曲を、竹山逸郎・中村耕造が歌ってロングセラーに。

三面記事

〝説教強盗〟が警察で説教

〝説教強盗〟妻木松吉（四九）は前年一二月、秋田刑務所を出所したが、このほど警視庁で開かれた全国防犯課長会議で講演し、手口そのほかをあかした。それによると盗みの素人は侵入したら出（逃げ道）を作っておこうとするが、プロは逆に警察などの外からの攻撃に備え、内側からかぎをかける。侵入したら自分の家の中を歩くように普通に歩く。抜き足さし足は素人のやることで、逆に感づかれやすい。侵入された側は盗っ人にきづいたら、あまり大声を出さないこと。盗っ人も騒がれるのが一番こわいから、中には逆上して斬りかかるやつも出てくる。強盗のほとんどはその類である。

獲物を入手した後は、わざと手がかりになるものを残しておく。それも糸のついた金ボタンなど、いかにも犯人がきづかず落としたように見えるものがよい。警察は頭が固いから、いったん「ホシは学生だ」と思いこんだら、ほかのことは考えなくなる――という。

（「ホープ」四月二五日号）

▲東京重機工業は7月、小銃の銃床に使用したくるみ材を利用し、「アイスキャンデーボックス」を発売。

東京重機工業蔵

警察署長を仲介に夫婦交換の試み

〔千葉発〕千葉県五郷（ごごう）村の杉山市太（五四）と杉山ミネ（五二）という夫婦、三〇年の結婚生活を振り返るとまことに索漠（さくばく）、何か老いた花を咲かせる方法はないかと考えたあげく、同じ思いの老夫婦と夫婦交換して、もう一度新婚気分を味わおうと思いついた。しかし、「すぐによりが戻ったのでは、なんにもならねえ」というので警察を仲介に立てることに衆議一決、そろって茂原（もばら）町の警察に駆けこんできた。署長さん、驚いたりなだめたりしたが、「反対する署長さんこそ民主的でねえダッペ」とごね、夕刻になっても帰らない。ついに署長のカンシャク玉が破裂したが、四人は「ふんとに話のわからねえ署長だ」との捨て台詞（ぜりふ）を残して、ようやく退散した。

（「朝日新聞」二月二六日）

▲はだし通学もいた日本の子どもとは対照的に、専用スクールバスで通学する米軍人の子どもたち。

月刊沖縄社

珍商売

隠退蔵物資摘発の情報屋 子分を使い大阪で暗躍！

大阪地方経済安定局では昭和二二年九月から二三年一月の間に、三億五〇〇〇万円の隠退蔵物資を摘発したが、その中には報奨金めあてのブローカー、すなわち情報屋からの情報もだいぶあるという。同局によると情報屋のボスは関西に五、六人いる。彼らは調査員などの名目で、二〇～三〇人の子分を使い会社に潜りこんでさぐらせている。子分は親分から定給をもらっているが、ある男は一一万円の報奨金を受け取り、その晩有頂天（うちょうてん）でメチルを飲んで死んでしまった。

（「毎日新聞」二月一三日）

この年の初もの

名店街が、渋谷の東急東横百貨店に

●**模擬試験**　旺文社が大学入試の模擬試験を開始。

●**巡回教育映画**　新潟市で始まる。市内の小中学生三万人が六円ずつ出しあって映写機を購入したもの。

●**屑鉄回収自動車**　車体の後ろに巨大な磁石を取り付けたもので、大阪市が考案。

女心のABCもしらずしてなんの忍術ゾヤ

ハハーッ

▶九月から、杉浦幸雄「アトミックのおぼん」の連載が、雑誌「ホープ」でスタート。

世界の動き

解放から4年目、米ソ対立が生んだ"38度線の悲劇"

大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国が相次いで成立

◀首都ソウルで行われた独立式典には、マッカーサー連合国最高司令官が出席。右は大韓民国初代大統領の李承晩。
共同通信社

▶大韓民国政府樹立国民祝賀式。南朝鮮のアメリカ軍による軍政は、8月16日午前零時をもって解消した。

三六年にわたる日本の支配から解放された朝鮮半島は、北緯三八度線を境に南はアメリカ、北はソ連の軍事占領下におかれた。そして、米ソ冷戦の中で、南北分断されたまま独立。一九四八年、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国が成立する。対立は、やがて熱い戦争に発展し、一二六万人の同胞の血が流される"民族の悲劇"を生むこととなった。

解放の喜びもつかの間 分断された朝鮮半島

一九四八年八月一五日、日本の降伏による"解放"から四年目を迎えたこの日、ソウルの政府庁舎前広場の演壇には、七月二〇日に初代大韓民国大統領に就任したばかりの李承晩（七三）の姿があった。大韓民国の独立を宣言した李承晩は「いかに強大な国といえども、（中略）その弱い隣国の領土を占領することは許されない」と、北緯三八度線以北の朝鮮を占領するソ連を非難。広場前では韓国警備隊四五個中隊と青年団員一万人の祝賀行進も行われた。しかし参列した連合国最高司令官マッカーサー元帥（六八）、南朝鮮アメリカ軍司令官ホッジ中将の姿は、李承晩の背後にも「強力な国家」がいることをものがたっていた。

一方、九月九日にはソ連占領下に、金日成（三六）を首相とする朝鮮民主主義人民共和国が成立した。ソ連軍政治司令部を後ろ盾に権力を掌握してきた金日成は翌一〇日、アメリカが強引に進めた南朝鮮単独総選挙で成立した大韓民国を、「民族反逆者であり、反動売国奴の集まりである」と激しく罵った。

「日帝三六年」の支配から解放された一九四五年八月一五日、誰がこうした形での朝鮮半島の「独立」を予想しただろうか。

四五年八月九日に朝ソ国境を越えた三万のソ連軍は急速に朝鮮半島を南下し、八月二二日には平壌と元山に進駐。ソ連軍は、「解放された朝鮮人民万歳！」と結ばれた布告文を発表する。しかしその翌日、三八度線直下の開城に達したソ連軍は、ぴたりと進撃を止めた。八月一五日にアメリカから提案された分割占領に同意した結果である。

「朝鮮半島全体を占領しかねないソ連軍の勢いに、あわてたアメリカは八月一一日に分割占領を検討し始めたのです。泥縄式に決めた三八度線が南北分断の始まりだった。もっとも、ソ連参戦前に日本がポツダム宣言を受諾していれば、朝鮮半島分断はなかったとも言えますが」（小松短期大学・林建彦氏）

九月八日にはソ連との合意に基づき、七万二〇〇〇人のアメリカ軍が仁川に上陸し、ホッジ中将はただちに軍政の樹立を布告する。ここに南北分断国家の種がまかれたのだった。

▲一九四八年九月一〇日、最高人民会議第一回会議で政治綱領を発表する金日成首相。
朝鮮通信 共同通信社

共同通信社

外から見たNIPPON

マーク・ゲインの『ニッポン日記』があかした日本占領の実態

――佐伯 修

▶生年も出生地も諸説があるマーク・ゲイン。

アメリカのジャーナリスト、マーク・ゲイン（三六）が、爆撃の跡も生々しい厚木飛行場に降り立ったのは、敗戦の年の暮れ、一九四五年一二月五日のことだった。

東京へ向かう自動車から、「まさに人間がこしらえ上げた砂漠」と化した横浜の廃墟を目撃した彼は、翌日、東京の「プレス・クラブ」に顔を出す。そこには、あやしげな連中の集う、奇妙な社交界ができていた。

「ドアが一度しまればこれらの（焼け跡の）混沌はるか遠のき、ここは温かな忙しい、各国語の世界である。（中略）片隅には、神秘的な一日本人を囲んでボソボソ低声で話し合っている人たちがいるかと思えば、他の一隅では、フランスの一特派員があえかにも美しいユーラシア系の婦人を腕に擁している。ドイツ人の情婦と話しているアメリカ人もいる。その女はその肉感的な魅力でかつてはナチの一指導者をたのしませたものだ。背の高いやせた、戦犯に指定された一日本人が、ニューヨークの新聞記者と話している。クタクタになったスコッチの背広を着た彼は、どうやらその新聞記者が、彼の逮捕に関して、何か助力を与えてくれるとでも思い込んでいるようだった。中国人のある記者は、アマーストに学びその後日本の海軍の諜報部で働き、インドの王女と結婚したという日本人と話している」（井本威夫訳『ニッポン日記』）

以後、約一年にわたる、ゲインの、「シカゴ・サン」紙の東京支局長としての取材活動の記録は、一九四八年、『ニッポン日記』として刊行され、日本でもベストセラーになった。彼は、財閥解体や農地解放といった、マッカーサーの占領政策の実施ぶりとその反響、食糧メーデーや天皇巡幸といった、日本の戦後史のドラマチックな現場に立ち会った。

戦後の日本へ降り立ってから三五年後の一九八〇年、ゲインは再び日本を取材し、書いている。

「しかし、なんとも奇妙なのは、日本人が私に話してくれる占領政策は、私が終戦直後に自分の眼で観察し、私の『ニッポン日記』に書いた占領政策ではないということである。時が経つにつれて、マッカーサー時代は神話の世界へ祭りあげられ、当時の実態とは似ても似つかぬものになっている」（久我豊雄訳『新ニッポン日記』）

ゲインによれば、占領政策の実態は「野望とイデオロギーの衝突にひしめく」ものであって、日本国民はそれを知らなかったという。

米ソの代弁者が政権へ内戦が国際紛争に発展

一方で米軍上陸直前の九月六日、ソウルでは「朝鮮人民共和国」の樹立が決議された。当時、アメリカにいた李承晩を主席とする閣僚名簿には、副主席に左派民族主義者の呂運亨（ヨウニョン）（四七年七月一九日、アメリカ軍政庁の左派弾圧のさなかにソウルで暗殺）、内務部長には中国・重慶で大韓民国臨時政府を組織していた右派の金九（キムグ）（四九年六月二六日、韓国陸軍少尉によってソウルで暗殺）など国内外の解放運動家の名前が並び、民族統一戦線的な政体が構想されたのだった。中央人民委員の中には金日成の名もあった。

しかし、こうした構想が実現できる状況に朝鮮半島はなかったと『朝鮮戦争』（総和社）の著者・孫栄健氏は言う。

「日本の支配から、米ソの軍事占領にそのまま移行したために、民族独立のために有効な手だてをとる時間的余裕も組織的基盤もなかったのが、当時の朝鮮半島の現実でした」

四五年秋頃からドイツ、東欧をめぐって表面化した米ソの対立の中で「人民共和国」は挫折する。そして「ここは一つの戦場だ。ここでは我々とソ連との軋轢（あつれき）の為に民衆の人権も生活要求も願望もすべて犠牲にされた」（『ニッポン日記』）とアメリカ人新聞記者マーク・ゲインが記したように、米ソは自国の国益にかなう政治勢力をそれぞれの占領地域で育成・強化していった。その結果が朝鮮半島に誕生した二つの国家だった。

「抗日パルチザンだった金日成はソ連船で、在米独立運動家の李承晩は米軍機で帰国しました。それぞれ帰国の仕方が象徴するように、南北で政権を握ったのは米ソの代弁者だったのです。そして宗教戦争にも似た東西冷戦の中で、朝鮮民族は政治的な極左、極右に思想統一されてしまったのです」（孫氏）

そして「ひとたび相拮抗（きっこう）する政権が樹立されれば、もはや内戦は避けがたい」（『ニッポン日記』）というマーク・ゲインの分析どおり一九五〇年には朝鮮戦争が勃発する。「国連軍」の名のもとに米軍が全面介入し、八〇万を超える中国人民解放軍も参戦して、内戦はいっきょに国際紛争に発展する。東西両陣営が対決した三年間の戦いの中で、南北合わせて一二六万人もの朝鮮人が犠牲となった。

李承晩（一八七五〜一九六五）
政治家。黄海道で生まれ、一九〇四年アメリカに渡る。四五年に帰国、四八年大韓民国初代大統領。六〇年、四月革命により退陣、アメリカへ亡命。

金日成（一九一二〜一九九四）
政治家。平壌で生まれ、一九三二年抗日遊撃隊に。四八年朝鮮民主主義人民共和国初代首相。民族共産主義的立場からチュチェ（主体）思想を唱えた。

東亜日報　KRN

▶一九四八年五月三一日、制憲国会の開院式が行われ、臨時議長に李承晩が選出された。

往きて還らぬ

▲3月25日　真山青果（まやませいか）(69)
小説家として出発、後に劇作に転じ「平将門」など重厚な歴史劇を発表。井原西鶴の研究でも有名（前列中央）。

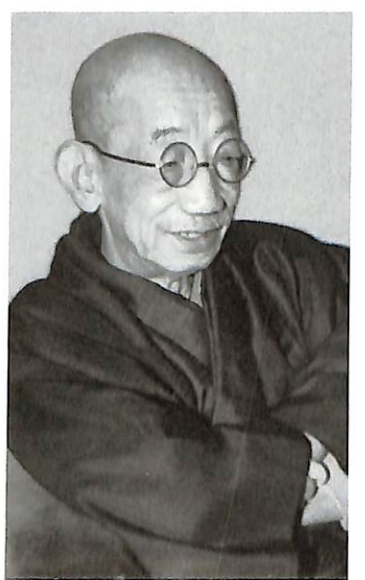
▲8月16日　ベーブ・ルース(53)
米野球選手。ヤンキース、ブレーブスで活躍。年間60本塁打、本塁打王12回などの記録を持つ。昭和9年来日。

▲10月11日　岡本一平(62)
大正期のマンガ界のリーダー。ユーモアに富んだ政治マンガで人気を集めた。岡本かの子は妻、岡本太郎は息子。

▲11月1日　曾我廼家五郎（そがのや）(71)
明治37年曾我廼家喜劇（後の松竹新喜劇）を創始。「無筆の号外」が大当たりとなり、日本に喜劇を確立した。

共同通信社

▲11月4日　福原信三(65)
資生堂の創業者・有信の3男で、同社社長のかたわら写真家としても活躍。大正10年には雑誌「写真芸術」を創刊。

▲4月20日　米内光政（よないみつまさ）(68)
連合艦隊司令長官を経て、昭和15年1月首相に就任。その後海相として、戦争終結や戦後処理を行った。

▲5月23日　美濃部達吉（みのべたつきち）(75)
憲法学者。東大で比較法制史などを講義。大正元年『憲法講話』を著し天皇機関説を提唱、不敬罪で告訴された。

▲1月19日　出口王仁三郎（でぐちおにさぶろう）(76)
大本教の教主。出口ナオの婿養子となり組織を全国に拡げた。教団は不敬罪により2度弾圧され、再建中死去。

▲4月17日　鈴木貫太郎（かんたろう）(80)
連合艦隊司令長官などを歴任。昭和20年4月第2次大戦中最後の首相に就任、日本を無条件降伏に導いた。

▲2月11日　S・エイゼンシュテイン(50)
「戦艦ポチョムキン」「イワン雷帝」で知られる、ソ連の映画監督。映画のモンタージュ理論を提唱した。

▶3月6日　菊池寛（かん）(59)
小説家。『恩讐の彼方に』『父帰る』などを発表、大正12年「文藝春秋」を創刊し、同社を一流出版社に育て上げた。

ミニ事典
1948年のキーワード

九大生体解剖事件
捕虜になったB29乗員八人に対して昭和二〇年五月、西部軍関係者一一人と九大医学部関係者など一四人が共謀、生きたまま臓器などを摘出、また肉を試食したというもの。三月一一日、横浜で軍事裁判が開かれ、八月二七日に判決が下った。五人が絞首刑、四人が終身刑、肝臓試食を疑われていた五人は無罪となった。

毎日新聞社
▲九大生体解剖事件の第1回軍事裁判。300人が傍聴した。

母子手帳
妊娠を届け出たものに対して都道府県知事が交付する手帳。医師・助産婦・保健婦などによる保健指導を記入し、妊娠中の母体と出産後の乳児の健康管理をはかるのが目的。前年一二月に制定された児童福祉法に基づき、五月一二日から配布された。昭和四〇年からは母子健康手帳と改め、母親みずから生活記録を記載できるようになった。

プレスコード違反
GHQ(連合国総司令部)が発令した一〇ヵ条の新聞紙規定(プレスコード)違反。六月一九日、日刊スポーツ社が初めて抵触した。同紙が浅草・大都劇場での米国裸体ショーにGHQ演劇課長がかんでいると書いたためで、米軍憲兵法廷は二人を有罪、会社には営業停止六ヵ月とした。日本の新聞の軍国主義的傾向の一掃が目的だったが、次第に占領政策やGHQの権威を守ることに力点がおかれるようになった。

昭電疑獄
政府の肥料増産計画を受けた昭和電工が、国の金融機関、復興金融金庫(復金)の融資を得るために政官界に行った贈賄事件。六月二三日の日野原社長逮捕を皮切りに大蔵省主計局長・福田赳夫らが次々に逮捕され、芦田内閣は一〇月に総辞職、一二月には芦田自身も逮捕された。GHQの政策転換から起こった事件と言われ、逮捕者六四人中三七人が起訴されたが、日野原、前蔵相・栗栖赳夫ら三人だけが有罪だった。

朝日新聞社
▶銀座のロングスカートの二人連れ。

ニュールック
フランスのデザイナー、クリスチャン・ディオールが前年二月に発表したロングスカートが欧米を席巻した。五月二〇日付「朝日新聞」が「女はスカートを長くし、男はパーマネントで前髪を立てる。これが東京の流行になる」と報じたとおり、日本でも、この年夏以降、急速に流行。衣装に節約と実用を強いられてきた女性にとって解放の象徴となった。

優生保護法
「遺伝学上の見地から、不良な子孫の出生を防止し、母性の健康を守ること」を定めた法律。七月一三日公布。九月一一日施行。産児調節運動家として知られた太田典礼、加藤シヅエらが原案を作成、戦後の過剰な人口増加、闇堕胎の横行に歯止めをかけるため、人工妊娠中絶の条件の緩和をはかった画期的な法律。昭和二四年の改正で「経済的理由」による中絶も認められるようになった。

政令二〇一号
政府が七月三一日に発し、即日施行された公務員の団体交渉権・争議権・罷業権を否定する命令。次第に先鋭化する全官公庁の労働運動に対し、マッカーサーは現業部門の官公庁からの分離、公務員の争議行為禁止などをはかるように勧告、それに芦田内閣がこたえた。一一月三〇日には国家公務員法が改正・公布され、公務員のスト権が剥奪された。

「異国の丘」
ソ連のウラジオストク郊外にあるアルチョム収容所に抑留されていた増田幸治が作詞し、吉田正が作曲した望郷の歌。二人が帰国する前の八月一日、NHK「のど自慢」で復員軍人が歌って注目され、一〇月にレコード化(歌は竹山逸郎・中村耕造)、大ヒットとなった。昭和二一年一二月の米ソ協定に基づいて始まったソ連からの引揚げは遅々として進まず、異国の地になお数十万人の日本人が取り残されていた。

主婦連
家庭経済の合理化と消費者の地位の向上をめざして、九月一五日、新憲法下初の総選挙で参議院議員となった婦人運動家・奥むめおを会長に結成された婦人団体。正式には主婦連合会。九月三日に東京で開催された「不良マッチ退治主婦大会」の盛会を機に、既存の婦人団体とは別に組織を確立、昭和二六年にはかっぽう着姿にしゃもじを持つ象徴的スタイルで米価値上げ反対を行った。

朝日新聞社
▶主婦連結成のきっかけとなった「不良マッチ退治主婦大会」の会場。

冷たい戦争
第二次大戦後の米ソ対立を象徴する言葉。英語で武力戦争を「ホット・ウォー」と言うのに対して作られた「コールド・ウォー」の訳語。この年一〇月二四日、バーナード・バルークが米上院で初めて使ったと言われる。米ソ対立は前年三月、米大統領が世界的規模での対ソ連封じこめ政策「トルーマン・ドクトリン」を発表してから決定的になった。

経済安定九原則
米国家安全保障会議が、GHQを通じて日本政府に実施を迫った、日本の産業復興と自立をうながす経済政策。東西冷戦の進行で強まっていた対日経済見直し論がその背景にあった。一二月一九日、吉田首相宛に、総予算の真の均衡をはかること、外国貿易・外国為替管理を改善強化し、日本側への委譲を可能にすること、などの内容だった。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1948

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室+渡邉裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ 小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力
奥村健太郎 乙咩雅一 影山光洋 影山智洋 笹本恒子 林忠彦 林義勝 福田俊二 カール・マイダンス 前沢健哉 朝日新聞社 共同通信社 月刊沖縄社 CORBIS・BETTMANN コリアン・リソース・ネットワーク TIME・LIFE 朝鮮通信 東亜日報 PPS 毎日新聞社 ユニフォト・プレス 読売新聞社 WWP 黒澤プロ 松竹 東京重機工業 東宝 ひばりプロダクション 台東区立下町風俗資料館 中央共同募金会 東京動物園協会 日本玩具資料館 日本近代文学館 日本自転車振興会 日本新聞協会 bpk

スパルタ品質。

PILOT

跳ね、払い、押さえ。日本の文字の特質を知り尽くすとペン先はどこまでも鍛えられる。

「永」。この一字の中に運筆のすべてが集約されるという。パイロットは日本人のあらゆる筆致に対応すべく、日本の文字の基本を見つめることから万年筆を開発。まず強度と柔軟性が同時に求められる地金部分は14Kがベストであると判断し、ペンポイントには超硬質の合金イリドスミンを溶接。そして毛筆を思わせる、しなやかさと弾力、滑らかな書き味を具現化し、書き手の嗜好に合わせ8種類のペン先を用意。書くという個性の表現にプロのまなざしと技で徹底的に臨む。これがパイロットの第一義である。

空気の流れ、インキの流れを追求していくと溝の切り方にも違いが出る。

そもそも毛細管現象により、文字が書ける万年筆。そのペン芯は空気溝、インキ溝、余分に流れ出るインキを溜めておく櫛溝から成る。単純な構造だが、それゆえ奥が深い。僅かな気圧・気温の変化でも、インキの流れに影響を与える。↗ボタ落ちがなく、いかなる場合でも最善の書き味を約束するためには、ひときわ精密な溝の設計、細部への入念さが不可欠だ。結果、コンバーターでインキを補充する際、インキ壜にペンの首までどっぷり浸ける必要がない吸入機構をも実現。精緻であるからこそ、ペン先を紙に当てた瞬間、人間本来の繊細にして温かい感覚が込み上げてくる。それがパイロットの誇りとするところだ。

ステイタスを飾る美しさだけではない。「万年」筆であるためには堅牢さも要求される。

鞘、軸と呼ばれる万年筆のボディ。そこにはいつまでも損なわれることのない美しさと強さを求め、アクリル樹脂を採用。ポケットに入れて服地と擦れ合っても、失われない光沢。手に力がこもっても、しなりのある腰。掌になじむ肌触り。それは単なるステイタスシンボルではない、実際に用いられてこそ真価を主張する「万年」筆であるために。そしてすべては時代が変わっても裏切ることのない品質のために。ペン先からボディに至るまで一貫生産して世に送り出すこと。これこそパイロットの信念である。

カスタム 743FKK-3000R-B 30,000円

ぬくもりを伝えるものだから、
こだわりを持ってつくりたい。

CUSTOM

シャープペンシル、ボールペンもあります。

カスタム 74HKK-1000R 10,000円

カスタム 74BKK-1000R 10,000円

(価格は税抜き)

定価560円
雑誌 23702-8/12 T1123702080565
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社